

第5回木質資源安定供給検討会 (令和6年度)

令和6年12月5日(木) 14時00分～
江東公会堂 ティアラこうとう
B1F 大会議室



認定特定非営利活動法人
全国木材資源リサイクル協会連合会

次 第

I 理事長挨拶

II 出席者紹介

III 議 題

1. 要望書に対する見解

2. パネルディスカッション

(1) 第1部…4省庁（国の施策について）

(2) 第2部…ユーザー（今後の方向性について）

3. 最近の木質バイオマスの需給動向について

(1) 各地域協会の実情

(2) 令和5年度木質バイオマスに係る調査結果について

・木質バイオマス需要調査

・木質チップ等生産会員実態調査

(3) F I T認定事業者取扱実績報告

要望書

2050年のカーボンニュートラルに向け、様々な分野で新たな取り組みが進んでいる。木材リサイクルの分野も、いかに脱炭素に取り組むかは大きな命題であり、事業活動におけるCO₂排出量の可視化や削減を進めていく必要があり、この取り組みはユーザーからも強く求められている。また、資源循環の命題のもと、廃棄物の処理から良質な資源をいかに生み出すかが問われている。当連合会は木材リサイクルを通して、マテリアル原料とサーマル燃料の供給に取り組んでいる。しかし、これらの用途に加え、昨今、ケミカルという新たな分野への活用も課題となりつつある。木材資源の効果的な活用は、地球温暖化対策と循環型社会の構築という二つの課題の解決に深く関連する取り組みであり、国連の定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」への貢献に通じる取り組みである。木質チップの関係団体で構成している当連合会として、木材リサイクル分野の脱炭素化と効果的な資源循環を着実に進めていかななくてはならない。

また、近年の大規模災害における木くずの処理については当連合会の会員がノウハウを生かして出来得る限りの資源化に努めてきたところであり、こうした災害対策の分野においても、持てる力を結集し、速やかな復旧復興に取り組んでいく所存である。令和6年元旦に発生した能登半島地震の復旧復興支援に向けた取組も求められるところでもある。

近年ますます多様化する社会的要請に応えていくには、木材リサイクルの関係法令や諸制度の的確な見直しが必要不可欠となるであろう。

そこで、当連合会会員が社会的要請に応えていくために必要な事項について、ここに要望いたします。早期に実現できますよう、特段の配慮をお願い申し上げます。

令和6年7月24日

農林水産大臣 坂本 哲志 様
経済産業大臣 齋藤 健 様
国土交通大臣 斉藤 鉄夫 様
環境大臣 伊藤信太郎 様

認定特定非営利活動法人
全国木材資源リサイクル協会連合会
理事長 藤枝 慎治

環境省

1. 廃棄物処理業における適正処理と脱炭素経営の推進

2050年のカーボンニュートラルに向けて、改正地球温暖化対策推進法が施行され、特定排出者である企業は温室効果ガス排出量の可視化が求められた。また、すべての企業において脱炭素化経営は必至であり、廃棄物処理業においても、持続可能な資源循環はもとより、適正処理とともに温室効果ガス排出量の削減が求められる。そのため、脱炭素化経営に取り組んでいる廃棄物処理業者へのすみ分けや委託が進むよう、次の基本的事柄について取り組みを願いたい。

(1) 排出事業者責任の徹底について

委託契約やマニフェスト発行の当事者である産業廃棄物排出事業者が基本的な処理基準、委託基準を理解していないことが多い。例えば、マニフェストを持参しない、記載事項漏れ、設計数量と実績量の乖離、委託契約なしの持ち込みなどの事例が後を絶たず、徹底が必要である。そのため、排出事業者が廃棄物処理法令の知識や理解を深めて、的確に処理業務、委託業務を執行する担保として、法的資格を持つ者（例：産業廃棄物管理責任者）の配置の推奨と講習会受講制度を整備されたい。

(2) 小規模処理施設による不適正処理の排除について

処理量が一日5t未満の場合、廃棄物処理法による設置許可が不要であり、そうした小規模施設による廃棄物の不適正処理が見受けられ、適正なリサイクルを阻害する要因になっている。また、山間地域において、リース機械の移動式破碎機により許可なく現場破碎している例が見受けられる。環境負荷低減の観点からも、実態を把握するとともに監視を強化する等、不適正処理の撲滅に努められたい。

(3) 優良産業廃棄物処理業者認定制度における優遇措置の拡充

「産業廃棄物処理業の振興方策に関する提言」において、成長に向けた振興方策として優良産業廃棄物処理業者認定制度の強化と有効活用が謳われている。そのために許可の有効期限の更なる延長や一定の条件における施設の設置、変更手続きの簡略化など、優遇措置の拡充を図られたい。

2. 災害時の復旧・復興の取組について

地震、超大型台風など自然災害の脅威が増しており、災害時には被災木の大量発生が想定される。復興を図るうえで、この災害被災木を迅速に処理する一方、資源としての有効活用が求められる。そのため、次のことを検討願いたい。

(1) 広域対応と関係業界が連携できる仕組みづくりを

被災地域においては、地域ごとに特有の課題があり、想定通りに復興・普及が進まな

い現実がある。そうした課題を少しでも克服するため、被災地域を超えた広域対応と関係業界が連携できる柔軟な仕組みづくりを検討願いたい。

(2) 労働時間の上限規制に柔軟な対応を

災害時においては被災地の速やかな復興・復旧を目指し、あらゆる分野で昼夜を分かたず取り組んでいく必要がある。廃棄物の処理においても同様であり、一定期間における労働時間の上限を超えての取組が必要な場合がある。その場合、労働者の健康に留意することは当然だが、労働時間の上限規制に柔軟な対応を願いたい。

(3) 災害被災木受入による一時的な売り上げ増に、税制面での対応を

廃棄物処理業界は、早期の復旧・復興のため、通常の受入を制限しても処理能力の限界まで災害廃棄物の受入を優先する。このことは、一時期に搬入量が大幅に増加することにより売上げも大きく増加するが、これまでの取引企業との関係など中期的な経営計画に影響を及ぼすこととなる。その影響を少しでも緩和できるよう、災害時の一時的な売り上げ増による利益について、法人税の取扱いに関して一定期間の繰越を可能とするなど、税制面での柔軟な対応を検討願いたい。

(4) 災害廃棄物処理計画の策定と保管場所の確保

災害被災木の円滑な処理のためには、自治体における災害廃棄物処理計画の策定が求められている。令和4年3月時点の市町村の策定率は72%と増加しており、取り組みの成果が表れている。その中で、災害廃棄物保管場所の確保は大切な要件であり、迅速な対応のためにもあらかじめ保管場所の候補地をリストアップするなど、最大限の運用を図られたい。

(5) 柱、はりの保管場所の長期間使用

災害被災木のうち、柱、はりについては、材の性質上、マテリアル、サーマルなど様々な有効活用が可能である。そのためには、利用先の確保などの調整上、長期間使用できる保管場所の確保が求められる。そこで、飛散等の恐れが無い柱、はりを有効に活用するため、災害復興予算の柔軟な運用などにより長期間使用できる保管場所の確保を図られたい。

(6) 船輸送のための岸壁の確保

大規模災害時には一度に大量のチップが発生するためチップ受け入れ先の確保が広域になる場合があり、遠方への大量のチップ輸送は船での輸送になる。その場合、積み込み及び積み下ろしの岸壁の確保が必要となる。そこで、モーダルシフトの観点からも、

あらかじめ関係する国や自治体が連携して、災害時に行政が所有している岸壁を速やかに使用できるような体制の構築を願いたい

3. 業種の認定と外国人研修生の受け入れ

(1) 廃棄物処理業の職業分類の確立

外国人実習制度が育成就労制度に変わり、制度の目的に人材確保が加わった。但し、これは特定技能制度に連動する制度であり、この活用には業種の指定が不可欠である。現状、産業廃棄物処理業は人手不足が課題となっているが、その他サービス業としての位置づけである。育成就労制度を活用するためには、新たに独立した業種として位置づけられることが不可欠であり、そのための支援を願いたい。

(2) 労働安全衛生のノウハウ取得に支援を

全ての業界において安全性の向上は最重要事項である。外国人研修生を受け入れる場合、産業廃棄物処理業界は他に比べて労働災害が多く、安全な処理知識と技術の向上は喫緊の課題である。そのため、労働安全衛生のノウハウの取得に努める業界の取り組みを支援願いたい。

4. 脱炭素化経営とコストアップへの対策

カーボンニュートラルに向けて、プライム市場の上場企業はスコープ3までのCO₂排出量の把握が求められている。サプライチェーンに連なる資源循環業においてもCO₂排出量の可視化は重要な課題となる。そこで、DXを活用した排出量の計算と削減計画、そして促進のために工場の電力をRE100等に変えるなどの取り組みが求められる。これらはコストアップにつながるものであり、中小企業にとって大きな負担となる。こうした取り組みを促進するための補助メニューや支援策について検討願いたい。

経済産業省

1. 再生可能エネルギーの固定価格買取制度

(1) 既存事業者への影響について

再生可能エネルギーの固定価格買取制度に伴うバイオマス発電施設の計画において、本来活用が想定されていた未利用木材や一般木材のほか、建設廃材利用の計画も多く見受けられる。既存利用に影響を与えないという原則に則り、当初想定した未利用木材や一般木材の利用を最優先して、建設廃材系木質チップについては、既存利用者への流通が阻害されることのないよう、引き続き取り組みを願いたい。また、既に許可を得ている

発電事業者の使用燃料の大幅な変更についても、引き続き同様の取り組みを願いたい。

(2) 脱炭素化経営とコストアップへの対策

カーボンニュートラルに向けて、プライム市場の上場企業はスコープ3までのCO₂排出量の把握が求められている。サプライチェーンに連なる資源循環業においてもCO₂排出量の可視化は重要な課題となる。そこで、DXを活用した排出量の計算と削減計画、そして促進のために工場の電力をRE100等に変えるなどの取り組みが求められる。これらはコストアップにつながるものであり、中小企業にとって大きな負担となる。こうした取り組みを促進するための補助メニューや支援策について検討願いたい。

農林水産省

1. 再生可能エネルギーの固定価格買取制度

(1) ガイドラインの基本原則の遵守について

再生可能エネルギーの固定価格買取制度に伴うバイオマス発電施設の建設によって、従来の建設廃材等の廃木材チップの分野においてもマテリアル利用からサーマル利用へのシフトが見られ、今後の木質バイオマス発電設備の急激な増加によりこの傾向はますます顕著になると考えられる。このため、従来の製紙・ボード原料など既存利用事業者へ影響を及ぼさないとするガイドラインの基本原則を守るため、引き続き取り組みを願いたい。

(2) 合板型枠の由来証明の確認について

合板型枠がグリーン購入法に位置づけられたことにより、版面表示により、一般木質バイオマスとして取り扱うことが明示されたところである。しかし、版面表示は一部分であり、また、廃棄間際の材であれば、老朽化による表示の消失等によりその他の合板型枠材との区別が困難で、さらにチップになれば合法木材か否か判別することは不可能である。また、栈木等の取扱いについても厳格な対応が求められる。そこで対象木材かどうか、また、再生可能エネルギー固定価格買取制度の趣旨に合致しているかどうか監視方法を確立するとともに、適正な取扱いがされているのか評価方を確立願いたい。

2. 木質資源の地産地消の促進

2015年に国連が採択したSDGsの取組みが求められており、そのためエネルギー分野において大規模から分散化へと向かっていくことが考えられる。その際、要となるの

が再生可能エネルギーであり、第5次エネルギー基本計画においてもベース電源として位置付けられた。中でも、木質バイオマスは太陽光や風力と比べて安定的なエネルギー供給を可能とする。また、森林資源を対象として地域内エコシステムの構築に向けた報告書が公表されたが、未利用木材だけでなく廃木材の活用において適正処理とともに環境負荷の少ない取り組みが求められている。そこで、不法投棄の防止、遠距離運送によるCO₂増加などを考慮し、木質資源の地産地消が実現できるような環境負荷の少ない活用システムの確立を図りたい。

国土交通省

1. 再生可能エネルギーの固定価格買取制度の影響

「再生可能エネルギー特別措置法」の施行に伴い、未利用木材や一般木材を燃料として使用する計画のバイオマス発電事業者が燃料を集められないために建設廃材を燃料に使用することや、燃えやすい建設廃材を一部に利用するバイオマス発電計画も多くみられる。建設廃材系チップの既存利用者への流通が阻害されることのないよう、十分に監視、指導されたい。また、既に許可を得ている発電事業者の使用燃料の大幅な変更についても、同様の取り組みを願いたい。

2. 分別可能な建設資材の開発等

新工法による木造住宅解体の場合、在来工法に比べて複合材の使用が多く、その分別が難しい。そのため、結果として廃棄物になる事例が多く発生している。そこで、循環型社会構築のため、今後建設工法や建設資材の開発・製造にあたり、分別リサイクルを前提とした工法や製品を開発するよう指導願いたい。

3. 災害廃棄物を船輸送するための岸壁の確保

大規模災害時には一度に大量のチップが発生するためチップ受け入れ先の確保が広域になる場合がある。遠方への大量のチップ輸送は船での輸送になる。その場合、積み込み及び積み下ろしの岸壁の確保が必要となる。そこで、モーダルシフトの観点からも、あらかじめ関係する国や自治体が連携して、災害時に行政が所有している岸壁を速やかに使用できるような体制の構築を願いたい。

最近の木質バイオマスの需給動向について

—主に量の確保と価格対応—

【北日本木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

地域全体では、確保状況について通年を通じて見ると大きな変化は見られない。地域全体としては微減している感がある。処理価格の変動も、地域全体においてほとんど見られないが、一部地域において処理価格が低い地域も見受けられる。また、ボイラー側が木くずの処分業許可を取得し直接受け入れられる体制を整えつつある。

木質チップのマテリアル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

ボード業界、製紙業界ともに供給状況についてはおおきな変化は見られない。全体に少なめに推移しているように思われる。現在、冬季間の品薄状況を踏まえて抱え込みを見せ始めている。販売価格は、燃料の高騰により輸送経費・電力料金が値上がりしその分価格に反映され値上がりしているが、昨年に引き続きメーカー側の製造原価を補う状況にはない。（燃料・電気代高騰等による製造原価UP）

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

昨年に引き続き原油価格高騰、円安の影響から、PKS、海外産ペレットの価格が値上がっている中新たなボイラー稼働もあり、建設廃材木質チップの需要が高まっている。さらにこれから冬季にかけて雪国特有の品薄状態になる為、抱え込み需要がふえている。マテリアル同様運搬経費・電力料金が値上がりした分価格に反映され値上がり状況にある。しかしながら、メーカー側の製造原価を補う状況にはない。（マテリアル同様燃料・電気代高騰等による製造原価UP）

FITのバイオマス証明事業者認定状況について

2024年度更新事業所8か所中5事業所更新3事業所更新予定、2024年12.1現在27事業所認定です。

【関東木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

1 確保状況

- ◆ 令和6年4月～9月の廃木材等の入荷状況は、前年比4%の増となっている。（新会員の寄与分:1.0%）。
- ◆ コロナ過前の平成31年度と令和6年度との継続会員での比較では、0.6%の増であり、前期としてはわずかながら改善しつつある。
- ◆ 関東協会は、南関東地区、中関東地区、北関東地区の3つのエリアに分かれるが、上半期の実績は南関東で4.9%の増、中関東は0.1%の増、北関東は0.6%の増となっており、前年に比べ中関東も増加に転じた。

2 処理価格

- ◆ 2024年問題、諸経費の高騰により価格改定の動きがある。

木質チップのマテリアル供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

1 確保状況

- ◆ 木質チップは、総じて確保されており、生産に支障を来すような状況にはなっていない。
- ◆ 為替の変動は大きいものの夏から秋にかけて円安の動きは一服しており、輸入チップの価格はやや落ち着いてきている。しかし、今後の社会情勢を見越し、製紙・ボートともに国内チップの集荷を引き続き強化している。

2 販売価格

- ◆ 販売価格は2024年問題、諸経費の高騰により、価格改定の動きがある。

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

1 供給状況

- ◆ 建設廃材の発生が低調かつ不安定ではあるが、メーカーの工場が新設されるなど入荷量や出荷量は増加傾向である。
- ◆ 稼働を予定しているチップユーザーにより、需要の増が見込まれる中、災害廃棄物の動向にもよるが、秋から年末まで長期にわたる定修がなく、冬場の供給が不安視される。

2 販売価格

- ◆ 販売価格は2024年問題、諸経費の高騰を踏まえ、価格改定の動きがある。

FITのバイオマス証明事業者認定状況について

- ◆ 2024年12月1日現在の認定事業者は、44事業所
- ◆ 令和6年度は、これまで2事業所を新設し、6事業所を継続認定

【東海木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

4月～10月の入荷量としては、前年比約120%と増量。
特に解体業者からの入荷増が著しく、各社とも在庫状況は潤沢で年末を迎える見込み。
当協会員以外の同業他社が安価での引き受けによる、一時入荷減は多少見られたものの直近はさほどの影響はない模様。

処理単価：横ばい

木質チップのマテリアル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

2024年4月～10月のマテリアル出荷に関して、前年比95.3%と微減。要因としては

- ・出荷先においてボイラートラブル等が発生
- ・地域によってはFITボイラーの影響により、集荷に苦戦している状況
- ・運送業界の2024年問題の影響等により、運送費の高騰やドライバー不足が発生

期間中の販売価格は、前年比数百円/BDTの上昇

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

2024年4月～10月のサーマル出荷に関して、前年比102.1%と微増。要因としては、

- ・為替の影響により輸入により対応をしている燃料チップが軒並み高騰した為、国内燃料チップの調達に方向転換
- ・運送業界の2024年問題の影響等により、運送費の高騰やドライバー不足が発生

期間中の販売価格は、前年比数百円/BTの上昇

FITのバイオマス証明事業者認定状況について

東海協会14会員のうち5会員（7拠点）取得済み

【近畿木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

1. 確保状況（入荷状況）

廃材の入荷状況は、2022年是对前年比96%、2023年是对前年比101%、2024年は1～9月までの実績で対前年比100%とほぼ横ばいとなっています。しかしながら、直近3ヶ月(7～9月)では対前年比96%となっており、入荷減少に歯止めがかかるには至っていません。

2. 処理価格の動向

ここ数年処理価格は下がり基調でしたが、直近1年で見れば横這いで推移しています。

木質チップの MATERIAL 向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

1. 供給状況

廃材の発生減少のため入荷は厳しい状況が続いていますが、現状のところ安定供給できています。

2. 販売価格の動向

チップ価格は製紙用・ボード用ともにほぼ前年並みの価格で推移していますが、原油価格高騰の影響で運送費の見直しが行われており、運送費を含めたチップ価格は上がり基調です。

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

1. 供給状況

廃材の発生減少のため入荷は厳しい状況が続いていますが、大手ユーザーのボイラーの定期点検もあり、現状のところ安定供給できています。しかし、円安の影響で石炭やPKS等の発電所の輸入燃料が高騰しており、木質チップを含めた国内材へ切り替えが進んでいます。今後の動向次第では、安定供給に支障が出る事態も考えられます。

2. 販売価格の動向

燃料チップの価格は前年並みで推移していますが、MATERIAL向けと同様に原油価格高騰の影響で運送費見直しが行われており、運送費を含めたチップ価格は上がり基調です。

FITのバイオマス証明事業者認定状況について

2024年12月1日現在の認定事業者数は、10社 延べ12件です。

【中四国木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

・山陽

昨年度より廃材発生量はかなり減少し、ランニングコストを考慮し値上げは心構えするが廃材確保を優先し価格は据え置き、運搬コストは年々値上がり、24年問題があり厳しい状況が続く。

（岡山）木造解体工事の減少。（弊社2～3割減）価格変動なし。

・山陰

山陰地区の住宅着工数も全国的にも少なくなり、材料費もかなり高くなり住宅は全く建たず、もちろん解体も下がった。立ち退きも無く山陰道も来年4月に通行出来る予定のため、伐採材の生木も無くなった。チップも原料が少なくなり価値も下がり始めている。

・四国

解体工事件数の増加に比例し、入荷量は前年よりも増加しているが、この傾向は一過性のものと見られる。処理価格は横ばい。運搬コストを中心とするランニングコストの上昇は今なお影響が大きく、現状維持の傾向が強い。

木質チップのマテリアル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

・山陽

廃材パレット、解体工事、共に減少傾向が続き、販売価格は多少の値上はしたが価格は厳しい状況、輸送コストは値上がり24年問題もあり、全体的に値上がり傾向である。

（岡山）マテリアルチップ減少。価格変動無し。

・山陰

円安および解体工事の減少等により、製紙用・ボード用とも、需要は堅調。販売単価は上昇済み。今後の販売価格動向は、やや不透明である。

・四国

供給状況、販売価格ともに横ばいである。市場の需給バランスが大きく影響することから動向は不透明である。

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

・山陽

需給が逼迫しており、燃料チップの集荷が非情に困難(特に建廃系)な状況は続き、バイオマス発電所は稼働を制限(出力低下)し、操業している。大型バイオマス発電所は燃料チップの動向は厳しい状況が続いている。近年は2000kwの小型木質バイオマス発電所の計画が多く、使用燃料は生木系のみという。今後に期待をしたい。

（岡山）供給量減少。価格変動無し。

・山陰

需給が逼迫しており、FIT制度のデメリット(=固定価格買取制度により、売電価格を上げられない)が顕在化し、燃料の集荷が困難な木質バイオマス発電所は、その稼働を落として、操業している。また、脱炭素・脱石炭の動きもあり、FIT制度以外の燃料用チップ(特に建廃系)の需要・引き合いは強い。燃料用の動向は不透明感が極めて強い。

・四国

廃木材の入荷量の増加に伴い、供給状況も増加している。ただし依然として需給が逼迫しており、とりわけ環境問題に対する世論と社会制度の動きに強く影響されることから、動向については極めて不透明である。

FITのバイオマス証明事業者認定状況について

・認定事業者3社

- ①（鳥取県1社：認定：令和6年3月1日）
- ②（徳島県1社：認定：令和4年12月1日）
- ③（岡山県1社：認定：令和3年1月1日）

【九州木材資源リサイクル協会】

廃木材等の確保状況と処理価格の動向について（主に前年比）

廃木材の確保状況は基本的には横ばいか、減少している
下期に入って工事案件も増えてきていたが、年明けからの受注案件は厳しい状況
人手不足により工期遅れ等出来高が上がらないことが大きく影響している。
熊本地区は、震災の影響か解体案件が著しく減少している状況は引続き変わっていない。
処理価格は大きな変動無いが 一部地域で値下げが起きている。

木質チップのマテリアル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

マテリアル向け供給状況は、大きな変化はない。
人手不足による建設現場の工期遅れや、新規案件の減少または、競合メーカーの安値拡販による影響を受け生産量が減少している。
遠距離より集荷している為、2024年問題の影響が懸念されたが大きな問題は起きていない。
チップ販売価格は昨年比 上昇。

木質チップのサーマル向け供給状況と販売価格の動向について（主に前年比）

サーマル向け供給状況は、既存のユーザーが使用量を増やす方向であったり 新規チップ使用や FIT からの変更を計画するユーザーだったり増加傾向である。加えてケミカルでの利用という新しい動きも出ている。一方で廃木材の発生は減少傾向な為、タイトな状況が続いている。 中四国地区のユーザーが九州管内でのチップ獲得の動きもあり高単価が独り歩きしている状況もうかがえる。今後益々この状況は拡大していくだろう。

販売価格は前年度からは横ばいである。

FIT のバイオマス証明事業者認定状況について

2023年12月1日現在
13社22事業所（内GHG認定1社1事業所）

令和6年度 木質バイオマス需要調査結果

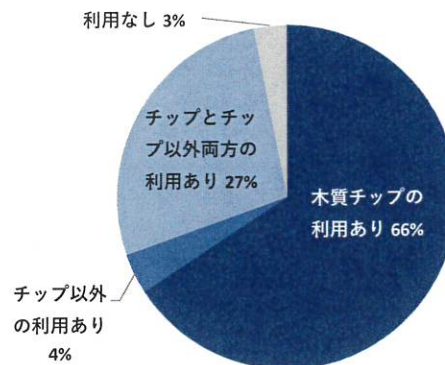
本年度の「木質バイオマス需要調査」を実施しましたので、集計結果を報告いたします。

1. 調査期間 令和6年7月24日(水)～8月30日(金)
2. 調査対象 全国の木質チップ等需要施設 全231か所
うち製紙会社42か所、ボード会社21か所、電力会社122か所、セメント会社11か所、その他35か所
3. 調査方法 郵便またはメールで調査票を配布
4. 回答状況 回答数:158 回答率:68.4% (昨年度は236か所調査、153件回答)

設問1 木質チップ、チップ以外の木質バイオマス(PKSやペレット等)の利用について (回答数:158)

木質チップの利用あり	104
チップ以外の木質バイオマスの利用あり	6
チップとチップ以外両方の利用あり	43
利用なし(事業停止・事業所閉鎖含む)	5
回答数	158

木質チップ、チップ以外(PKS・ペレット等)の利用割合



【利用あり事業所の用途の区分】

マテリアル	マ・サ両方	サーマル	合計
8	11	134	153

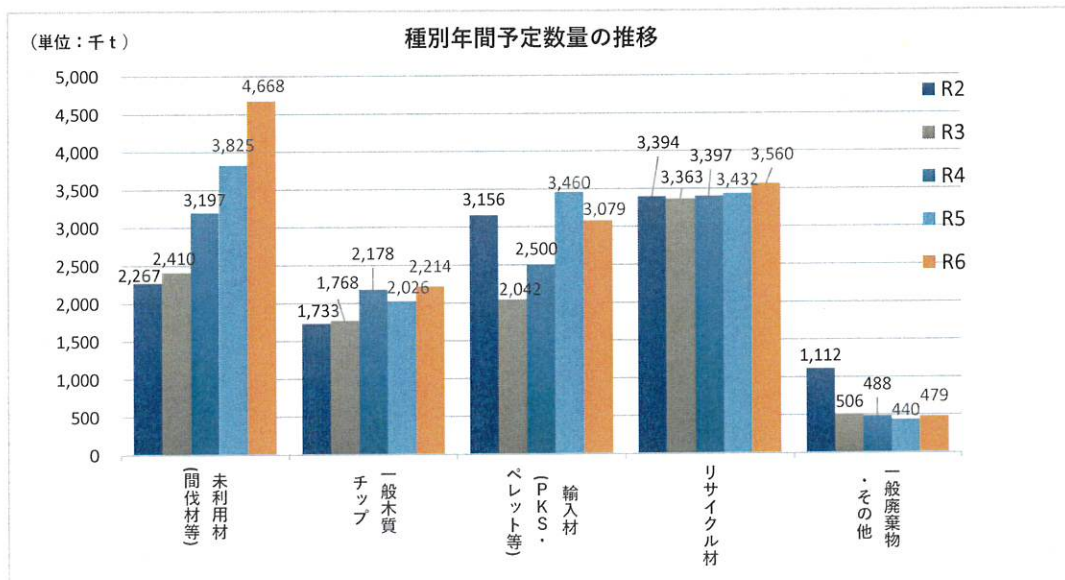
※以下、「マ・サ両方」はマテリアルとサーマルの両方を運用している事業所の意

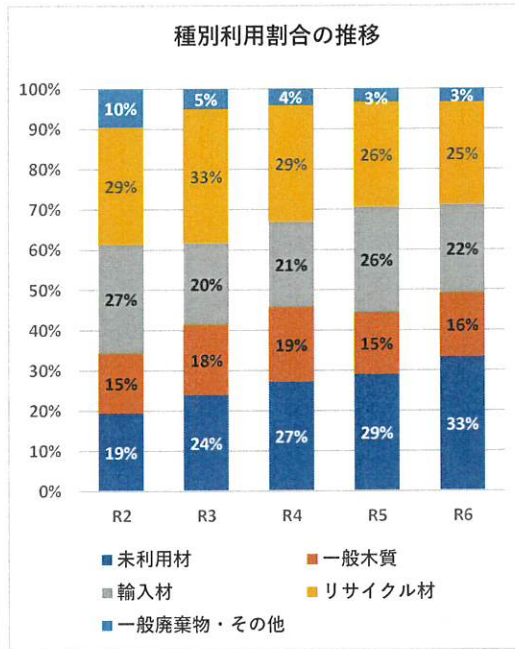
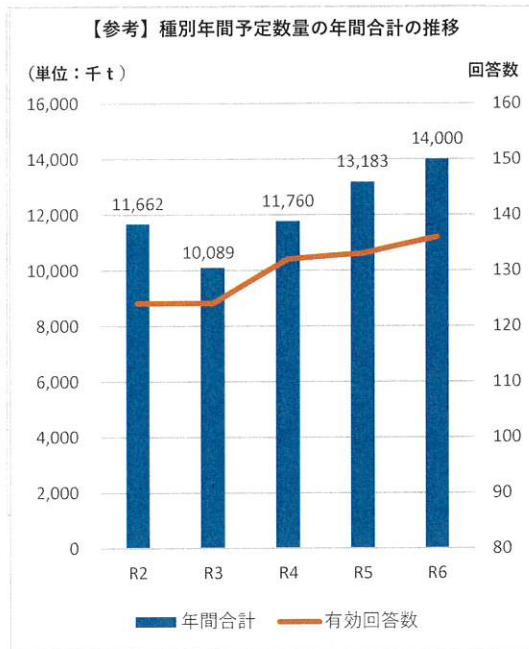
設問2 木質チップ等のサーマル利用を行っている事業所の年間予定数量とその割合 (回答数:136)

サーマル利用の種別年間予定数量 単位:t ()内は前年比

未利用材チップ(間伐材等)	4,667,985	(+22.0%)
一般木質チップ	2,213,806	(+9.3%)
輸入材(チップ・PKS・ペレット等)	※ 3,078,723	(-11.0%)
リサイクル材	3,560,497	(+3.7%)
一般廃棄物・その他	478,811	(+8.8%)
合計	13,999,822	(+6.0%)

※ 前年度(R5)に新規回答のあった大口の事業所から本年度は回答がなかったため、結果への影響を考慮し、欠測値として処理しました(R5の輸入材の数量から欠測分を除去し修正)

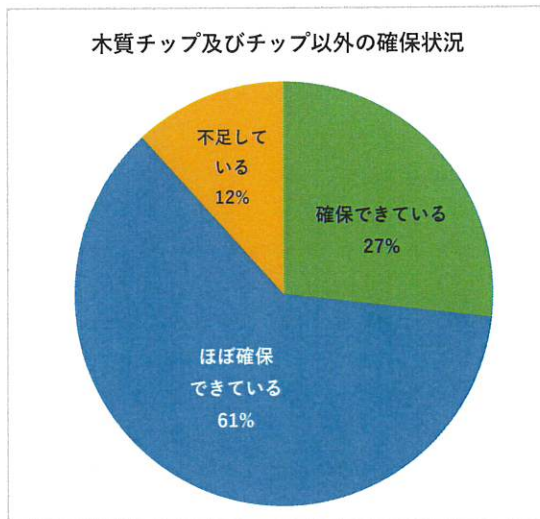




設問3 木質チップ及びチップ以外(PKSやペレット等)の確保状況について (回答数:153)

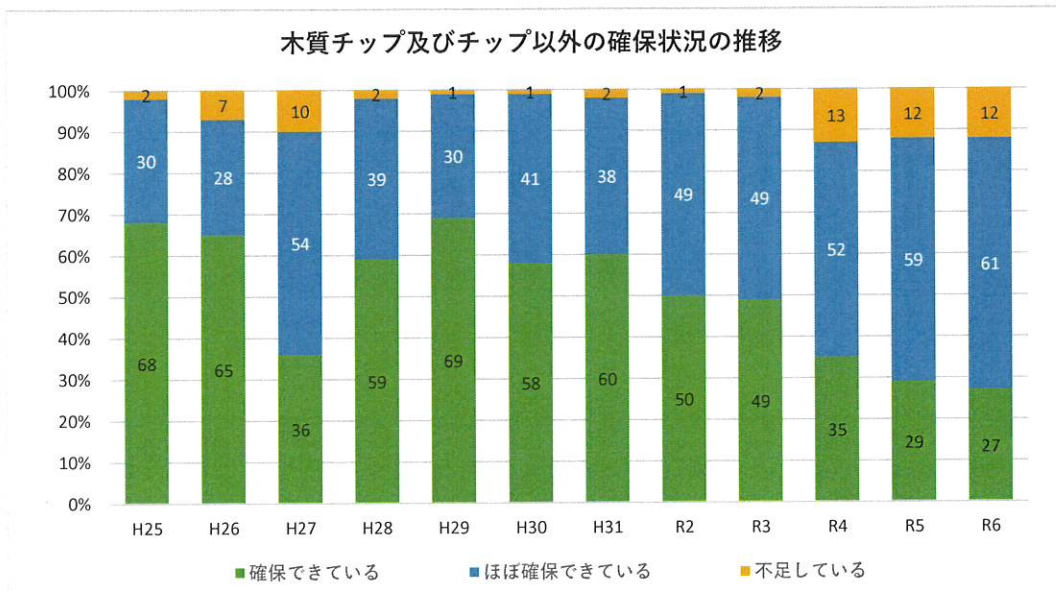
木質チップ及びチップ以外の確保状況

確保できている	41
ほぼ確保できている	94
不足している	18
回答数	153



用途別の確保状況

	確保できている	ほぼ確保できている	不足している
マテリアル	1	7	0
マ・サ両方	1	9	1
サーマル	39	78	17
合計	41	94	18



設問3で「不足している」と回答した事業所で、月にどのくらい不足しているか（過去6か月の平均値）

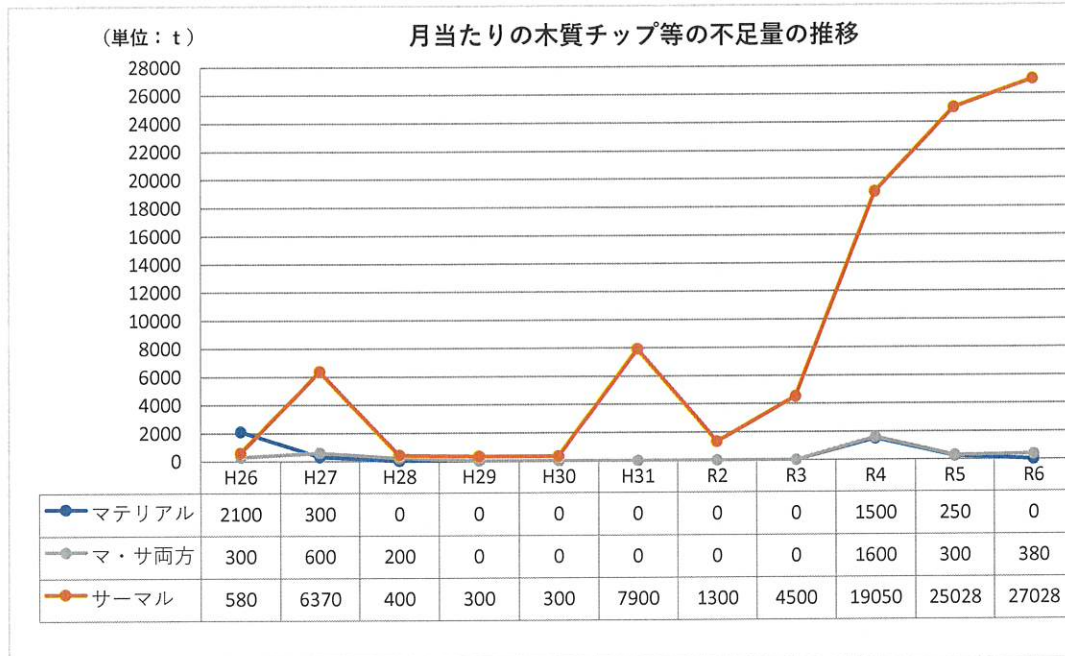
不足量の有効回答数

マテリアル	0
マ・サ両方	1
サーマル	17
合計	18

月当たりの不足量総計

単位：t

マテリアル	0
マ・サ両方	380
サーマル	27,028
合計	27,408

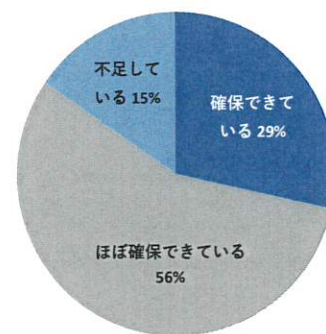


サーマル利用の事業所のうち、「売電」用途事業所の木質チップ等の確保状況

サーマル利用で「売電」用途の事業所の有効回答数	91
うち、確保できている	26
うち、ほぼ確保できている	51
うち、不足している	14
無回答	0

※ 売電用途には熱供給用途・自家発電用途との兼用含む。

売電用途における確保状況の割合



月当たりの不足量を地域別にみた場合

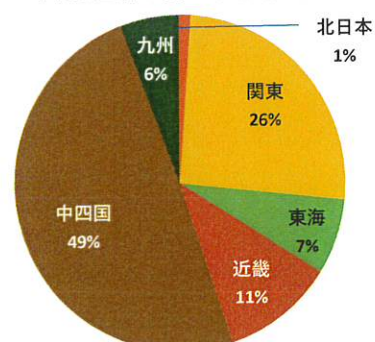
全国を6ブロックに分けて集計

※地域分類は当連合会の基準による（本報告書のP6参照）

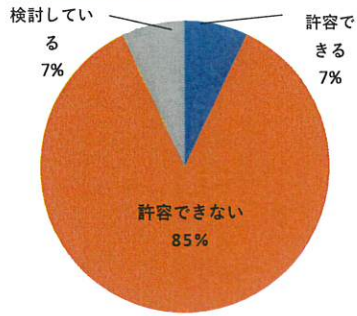
(単位：t)

北日本	300
関東	7,000
東海	2,000
近畿	3,000
中四国	13,528
九州	1,580
合計	27,408

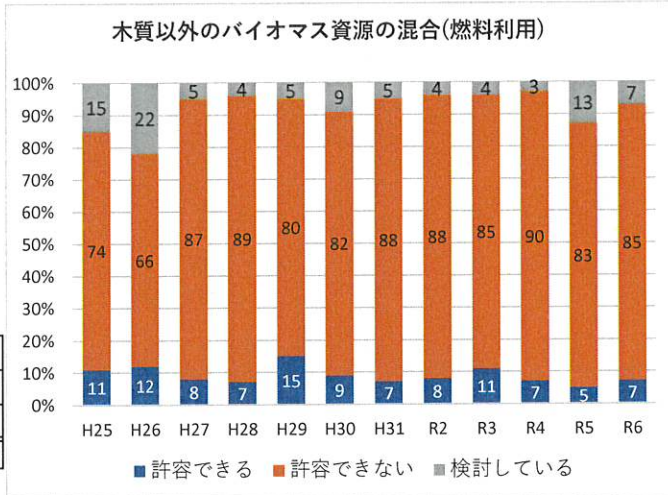
不足量全体に占める地域別割合



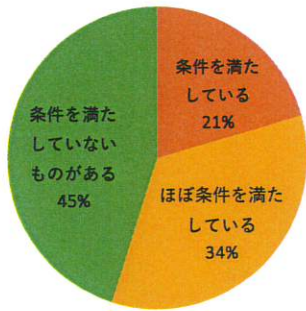
設問4 燃料利用の場合、木質以外のバイオマス資源(量や草等)の混合について (回答数 149)



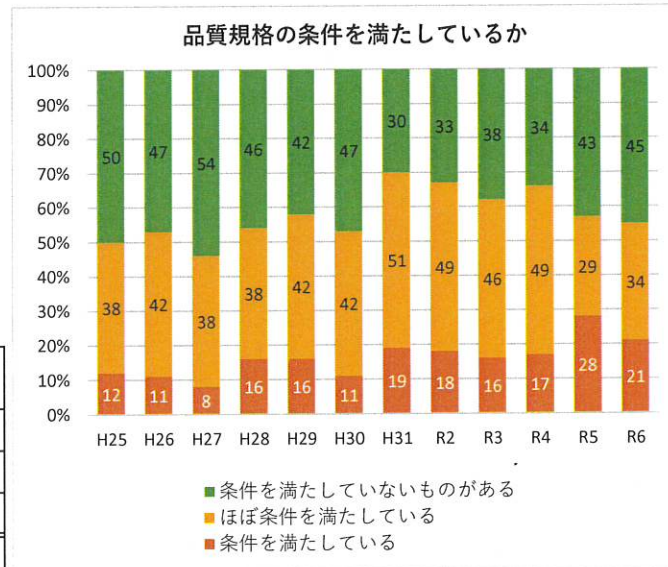
許容できる	11
許容できない	127
検討している	11
合計	149



設問5 木質チップ、チップ以外(PKS・ペレット等)の品質規格について (回答数 151)



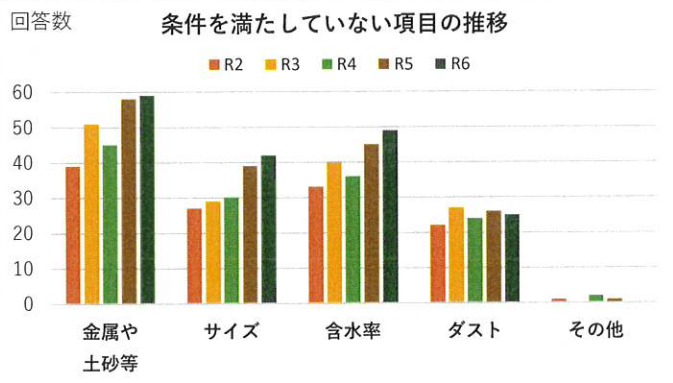
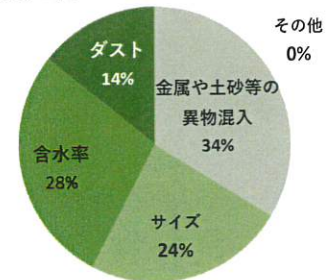
	条件を満たしている	ほぼ条件を満たしている	条件を満たしていないものがある
マテリアル	5	3	0
マ・サ両方	1	6	4
サーマル	25	43	64
合計	31	52	68



「条件を満たしていないものがある」と回答した場合の、満たしていない項目 (複数選択可)

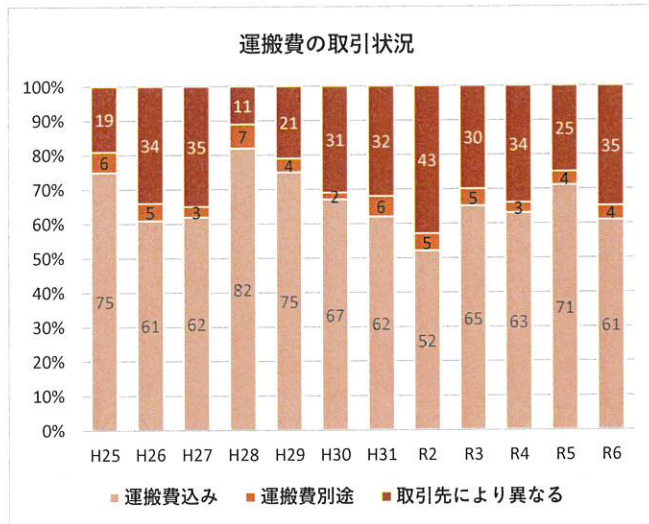
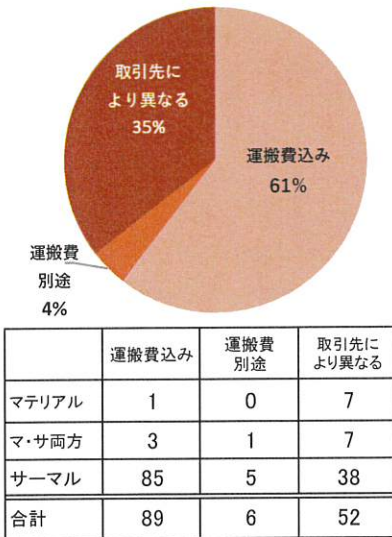
	金属や土砂等の異物混入	サイズ	含水率	ダスト	その他
マテリアル	0	0	0	0	0
マ・サ両方	4	3	0	1	0
サーマル	55	39	49	24	0
合計	59	42	49	25	0

条件を満たしていない項目の割合

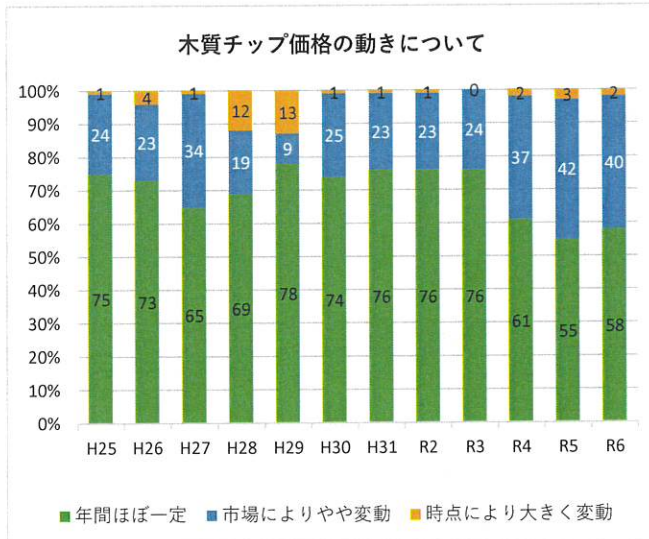
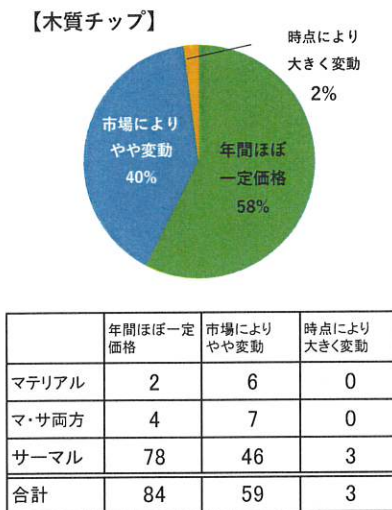


設問6 運搬費の現在の取引条件について

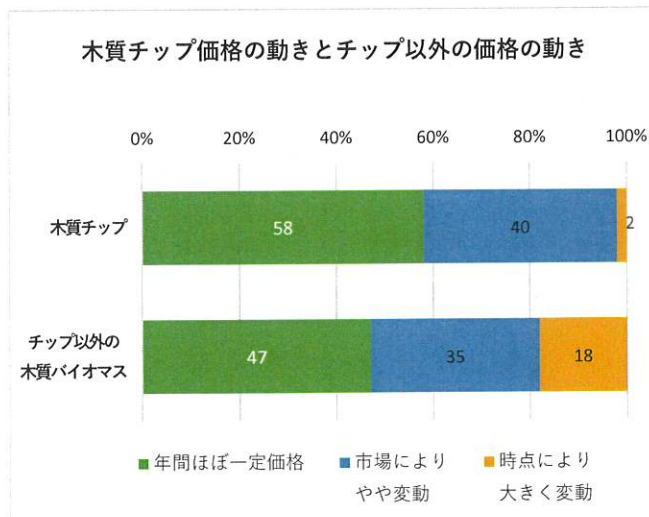
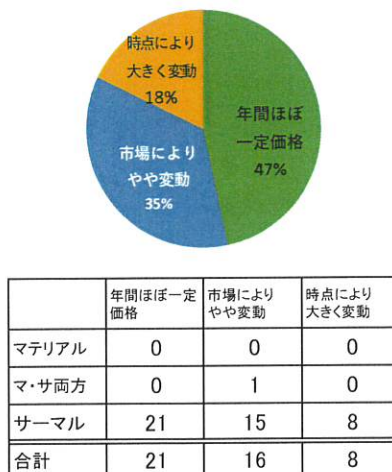
(回答数 147)



設問7 木質チップ及びチップ以外(PKSやペレット等)の価格の動きについて (回答数 146)



【チップ以外 (PKSやペレット等)】

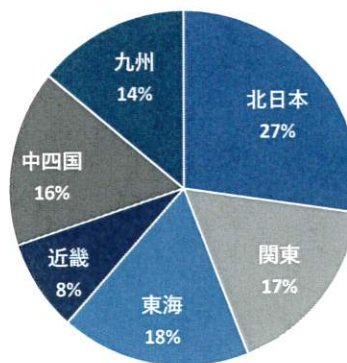


【地域別集計結果】

全国を6ブロックに分けて集計
(地域分類は当連合会の基準による)

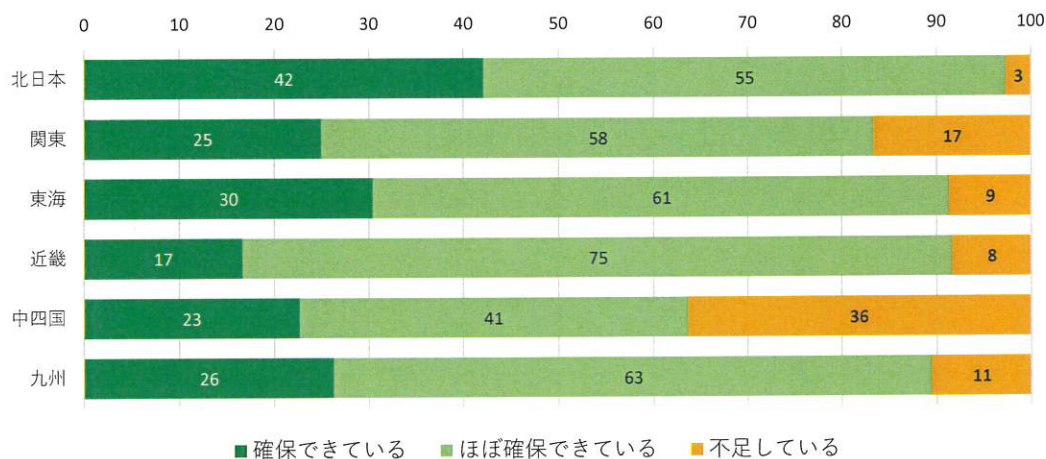
- 北日本…北海道・青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島・新潟
- 関東…栃木・群馬・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野
- 東海…静岡・愛知・三重・岐阜・富山・石川・福井
- 近畿…滋賀・京都・兵庫・奈良・大阪・和歌山
- 中四国…鳥取・岡山・島根・広島・山口・香川・徳島・愛媛・高知
- 九州…福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄

地域別回答事業所割合



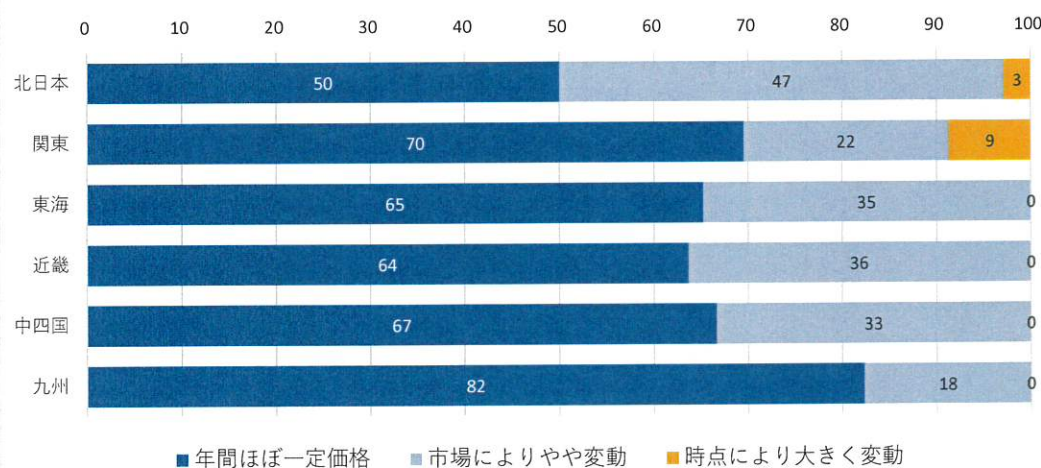
木質チップおよびチップ以外の確保状況について

単位：%



木質チップ価格の動きについて

単位：%



供給者へのご意見・ご要望

【金属や土砂等の異物混入】

- ・金属系の異物混入はトラブルの元になっているので、選別を強化する取り組みをお願いいたします。
- ・砂の混入が多い。そのため灰の処分費が多くなる。
- ・異物除去の強化とチップの安定供給をお願いしたい。
- ・異物混入によるボイラーの停止や付属機器の故障が発生しており、木質チップ発注の追加や取り消しが頻発している。
- ・金属異物の除去を徹底してほしい。
- ・破砕機にダメージを与える金属、石材等の混入防止。
- ・設備に損傷を与える可能性があるため、異物混入、特に30cm以上の大型なものが混入しないように注意してほしい。最悪の場合操業停止になり供給をストップしていただくことになるので、そのご認識をしていただくと同時に混入撲滅に注力してほしい。
- ・可能な限り、異物(特に金属)を減らしてほしい。
- ・引き続き、金属等の異物混入および水濡れに対して、徹底した管理をお願いしたい(運送会社に管理不備があるように見受けられることがある)。
- ・金属異物の除去が不十分なロッドを供給する供給者が散見される。改善されることを望む。
- ・建廃燃料にアルミが多く、炉内で溶けて、ストーカー床にはりつき、ボイラーのトラブルの原因になっている。
- ・マテリアルにおいては、異物・金属類混入対策強化の実施を。
- ・くぎ、金物などは磁選機等で除去されていると思うが、砂利などを除去してもらいたい。
- ・金属類や石等の異物の除去(破砕機故障の原因になるため)。
- ・異物混入防止に努めていただきたい。
- ・異物の混入(特に金属や石)に留意願いたい。
- ・異物混入による設備トラブルを回避すべく、サプライヤーでの適合チップ規格遵守をお願いいたします。
- ・廃木材由来の木質チップの異物混入防止対策に尽力いただいていると感じておりますが、直近では非鉄系異物の混入が多発している状況で、搬送設備の損傷及び操業影響が懸念されています。当該異物は磁選機で取り除くことが困難であり、混入防止を徹底いただきたい。
- ・異物混入は設備の損傷、稼働停止となる可能性があるため、原因究明と再発防止を徹底してほしい。
- ・チップ内に異物、規格外の木片の混入により、何度か設備トラブルが発生した。そのため発電を停止せざるを得ない事例があった。何度も供給者へお願いしているが、後を絶たない。もう少し供給者各々が品質管理の意識を持ち、徹底してほしい。
- ・異物混入は減ってきているものの、なくなっていない。継続した啓発は必要と考える。

【含水率・サイズ・ダスト等】

- ・オーバーサイズ混入の低減をお願いします。
- ・未利用材チップに関し、水分値や土砂などの異物混入の低減など、品質の向上及び供給の安定に向けた取り組みをお願いいたします。
- ・輸送途上のチップ水分率上昇を抑制並びにチップ飛散防止の観点から、チップに被せるネットをメッシュシート型へ切替をお願いしたい。
- ・ダストの除去、含水率の低減、運搬時の飛散防止(シート掛けの徹底)。
- ・チップ品質管理の徹底
- ・品質の安定(異物除去、サイズ、ダスト、水濡れほか)、および維持向上をお願いします。
- ・異物混入削減、チップサイズの適正化により品質の向上、安定化をお願いしたい。
- ・サーマルにおいては、砂混入による燃え殻の増加あり。
- ・ボイラーで燃焼するため、含水率が低く、異物の少ないチップを納入いただきたい。
- ・半分でもいいので、乾いたチップを入れてください。水分が多く、何回も火が消えて困っています。
- ・高含水率品の納品もあり、品質管理を徹底してほしい。
- ・量的な観点を中心に動いてきたと思うが、慢性的な不足状況においては含水率等、クオリティー部分も非常に重要であることを再度認識願いたい。
- ・オーバーサイズが混入するとコンベアで詰まり、ボイラー停止になることから、混入防止の徹底をお願いしたい。また、品質低下にともない、ばいじん、燃え殻の増加につながっており、分別の徹底をお願いしたい。
- ・需給環境が悪化している中、材の確保に苦労されていることは理解しているが、引き続き品質管理(特に水分率管理)と価格維持に努めていただきたい。
- ・高含水率、長尺物の混入、土砂など異物の混入がみられることがある。高含水率チップに関しては、保管ヤードでの雨水養生、運搬車両の防水シート徹底を図ってほしい。長尺物や土砂などの異物混入に関しては、破碎ヤードでの監視強化などを図ってほしい。
- ・これら異物、オーバーサイズの混入は設備損傷、設備停止による受入停止に繋がることになる。安定供給の継続のためにも徹底をしてほしい。
- ・チップ品質の安定(水分率)。
- ・チップサイズの均一化と異物混入をできるだけ排除していただきたい。

【安定供給・価格・その他】

- ・原材料価格に左右されるのがありますが、木質バイオマスを使用する競合他社も増えて「取り合い」になっている。これは供給者へ伝えることでもないですが、困っています。
- ・供給単価を安くしていただければありがたいです。
- ・年間を通して安定的なチップの供給
- ・安定的な(量・価格とも)納入量の確保

【安定供給・価格・その他】続き

- ・サーマル用燃料チップが余剰していた時代から、主燃料として使用していた需要家には優先的に出荷をお願いしたい。
- ・直近6か月の原料チップの集荷状況は問題ないと記載しているが、季節的要因が強い。冬場にはチップ不足が発生し、一昨年はチップ在庫がゼロになり生産が停止した。循環型社会形成推進基本法に明記されている通り、熱回収用途よりも再生利用用途を優先し、再生利用する業者への供給を優先して木質チップを提供していただきたい。
- ・近隣にバイオマス発電所が増えて、原木(未利用材)の確保が難しくなってきている。
- ・年間を通して、安定的な原木、チップの供給をしていただきたい。
- ・燃料チップ供給増、品質の改善に向けた取り組みに期待します。
- ・近年増してきたゲリラ豪雨による対策(含水率の問題)を実施してもらいたい。
- ・すべてにおいて安定したチップの提供をお願いします。
- ・予想使用料と実績が合うよう、量と質の確保に努めてほしい。
- ・安価材料の安定的な供給。
- ・安定供給に尽力してほしい。
- ・冬場もできるだけ安定供給および安定品質(水分値)を維持してほしい。
- ・弊社は長年の取引業者がほとんどであり、ほぼ毎月安定した供給をしていただいています。お陰様でチップの確保ができており、感謝しております。今後ともよろしくお願いします。
- ・2024年の物流問題を控え、運賃値上げ分の負担をユーザーだけに負わせるのではなく、木質廃材の処理費維持・値上げによる安価で安定した供給をお願いいたします。
- ・足元、発生減少傾向にあり、収集に苦戦しております。引き続き安定使用に努めますので、安定供給にご協力をお願いいたします。

連合会へのご意見・ご要望

【異物混入防止・品質向上】

- ・アルミ等の磁石に付かない金属類を選別する機器導入に対する補助金を国へ働き掛けるような取り組みに期待する。
- ・品質確保のため、指導の強化や品質認定書の発行などを検討してほしい。

【安定供給・価格・その他】

- ・現在は確保できているが、今後不足することが予想される。同業他社が増えすぎと思う。
- ・木質バイオマス需要調査結果について、大変参考になる内容と思います。調査を基にした活動内容をお聞きしたいです。
- ・2の設問での一般木質チップは工場生産による端材をチップにしたものを利用している。また、一般廃棄物・その他では建築廃材を粉砕したものを燃料として購入している。
- ・年々、住宅着工棟数の減少が顕著であり、廃木材の発生量も同様に減少。一方、脱炭素や環境対策の観点から、バイオマス事業に参画する企業が増加しリサイクル材の需要は旺盛な状況です。バイオマスボイラー乱立の中、稼働率を一定(安定)にする事が今後求められると考えます。斯様な状況下、需給バランスを鑑みた何某かの役割をお願いしたい。

【安定供給・価格・その他】続き

- ・今後の建築廃材の推移が知りたい
- ・補助金によって設立された発電所の稼働状況、排出されるCO₂等を精査の上、本当にCO₂が削減できているのか、検証をお願いしたい。
- ・【関東協会の取り組み】休炉情報を配信していただきありがとうございます。引き続き共有すべき情報があったら共有していきたいと思えます。また、異物対策をどのように施しているか、情報共有してもらいたいと思えます。
- ・チップの安定供給をこれからもよろしく願います。
- ・この需要調査結果を関係者に周知して情報を共有し、品質改善につなげていただきたい。
- ・需給バランスの改善に向けた取り組みに期待します。
- ・安定的な品質および供給の指導を徹底してもらいたい。
- ・木質チップは今以上に引き合いが多くなるため、ほかの燃料で何か代替しているものがあれば情報を提供してほしい。
- ・灰処理のコストが高くなっており、何か利用できるものはないでしょうか。
- ・木質バイオマスはあと何年供給できるのでしょうか。
- ・引き続き、情報の取りまとめ、共有をよろしくお願いいたします。
- ・設問2の投入量などは他機関へも報告している。エネルギー庁や林野庁、県の林業家など情報を共有することはできないのでしょうか。同様なアンケートや調査が多すぎて業務負担になり、困っています。調査内容は各省庁でかぶっていないでしょうか。
- ・供給者への意見・要望を伝え、徹底を図るよう指導をお願いしたい。
- ・今後、旧型の石炭火力の木の混焼化が進むのと、バイオエタノール抽出の材料化に向けての木の需要増が見込まれますが、カスケード型の頂点であるマテリアル利用に向けての材料の確保をお願いします。
- ・物価上昇・最低賃金底上げ等、企業にとっては厳しい状況が続いている。まだまだ木材の価格も高値が続いており、近隣との価格競争がある状況。供給業者からの安定的な仕入れがなかなか確保できない。林業後継者の確保ができないところも増えている。
- ・特に今年に入り、原木価格や2024年運送問題により、チップ買取価格を引き上げ(要請含む)を行い、必要量の確保に努めています。しかし、発電所側としても、チップ価格をはじめ、メンテナンス費用ほか器具機械、人件費も上がっている状況の中、現制度(FIT)では運営上の限界があり、他社も含め発電所全体の危機的問題となっております。連合会におきましても、機会がございましたら打開策等を国へ強く要望願います。
- ・製材工場、合板材工場が事故やトラブルで長期停止したときに、原木の無駄や林業者の仕事に支障が出ないように引き取り先のないA材、B材をバイオマス発電所で買い上げることができるような補助制度を検討いただきたい。
- ・発電所の故障など、需要者の事情により、木質チップの受け入れを調整せざるを得ない状況になることが今後もあるかと思えます。連合会のほうで協会員共通のチップヤードの保有をご検討いただきたく思えます。

【FIT・FIP制度】

- ・FITバイオマス発電所の増加によりC材が発電用に流れており、既存のチップ集荷に影響が出てきている。昨年は連合会より関係省庁に報告したとのことだったので、その結果を共有してほしい。
- ・FIT制度による売り上げの固定はある程度良い策と思うが、原価ばかり上昇して収益の増加はなしというのが正しいのか。国産材の利用に重点を置いた施策を行うべき。

【FIT・FIP制度】続き

- ・バイオマス発電所の増加とともにチップ需要が増えている状況で、発電事業者がチップを安定調達できるように需給調整をできる範囲でお願いしたい。
- ・各地、木質チップ発生量に対して木質バイオマスボイラーの建設が多いことから、需給バランスが崩壊しています。
- ・大型発電所の国産材利用率上昇、既存発電所のバイオマス混焼により、チップ需要が地域の産出量を超える状態になっていると見受けられる。連合会として、現状の把握と需給安定化へ向けた提言を行っていただきたい。
- ・建設廃材を使用するFIT発電所が全国で稼働開始しているため、今後計画通り稼働した場合の不足見通し等の問題点について、情報を共有させてほしい。
- ・輸出材の増加、およびバイオマス発電所の増加により、燃料の確保に苦戦している。
- ・近隣での新規バイオマス発電所が稼働していく中で、燃料集荷エリアでの競合や原木価格の上昇、燃料材不足など安定調達に不安がある。

【情報提供】

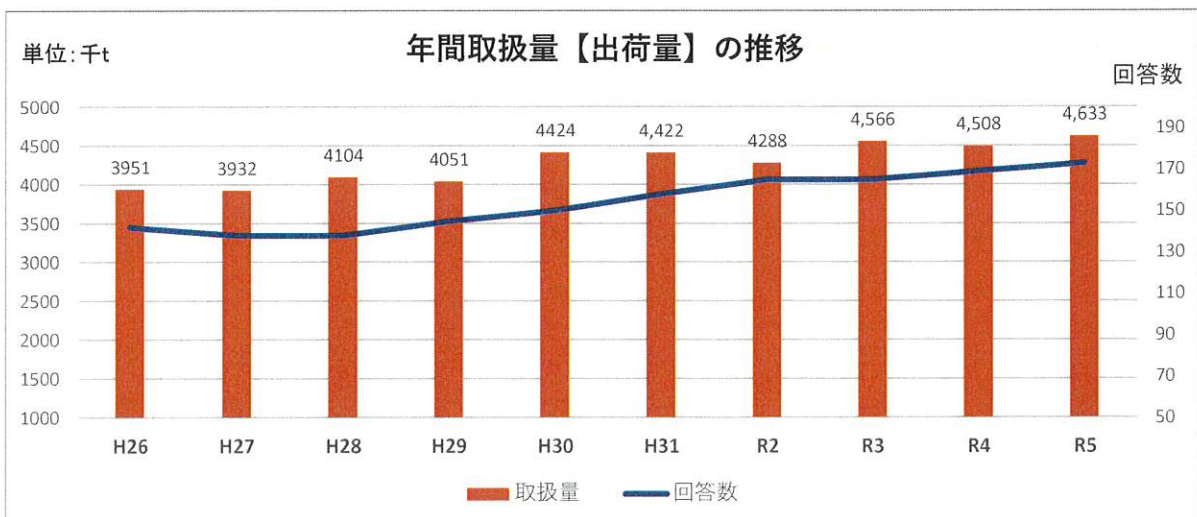
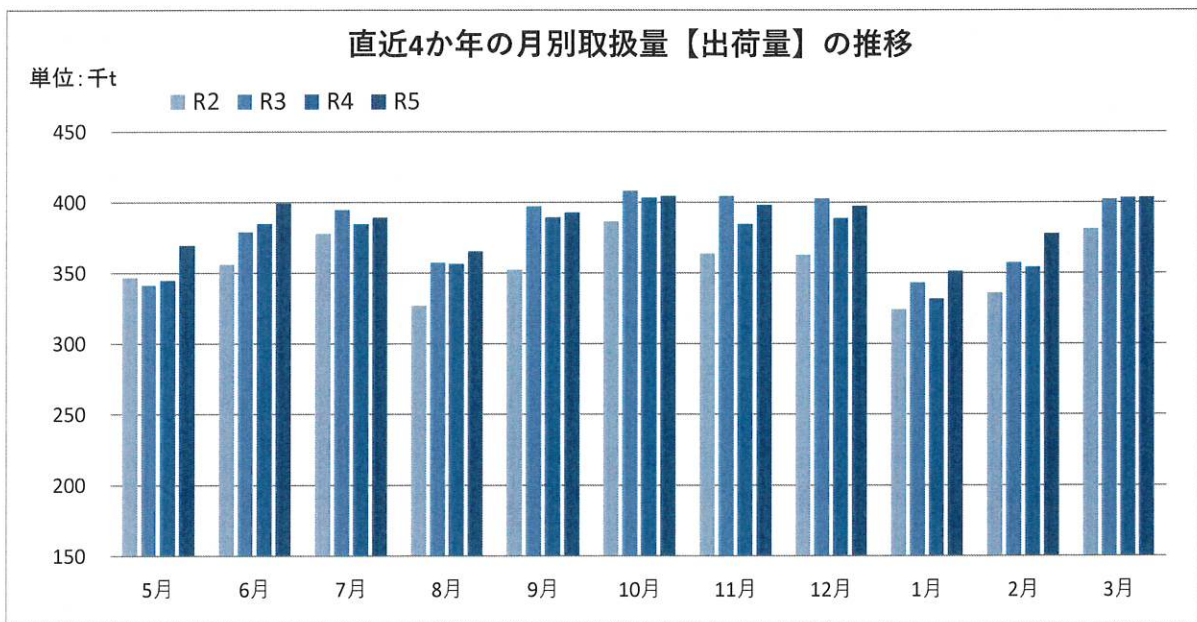
- ・建築解体材を再生利用するパーティクルボードは、建築解体材中に固定されていた炭素の固定期間を再生利用により再延長できる素材であり、CO2排出量抑制に大きく寄与してきたが、現在、パーティクルボードによる炭素固定効果はCO2排出量抑制には計算されていない。
- ・しかし、燃料用木質チップと原料木質チップとの品質的境界があいまいであるために原料となる木質チップが燃料用途に流れやすく、循環型社会形成推進基本法の趣旨に逸脱するばかりか、CO2排出量抑制に向けた取り組みにブレーキがかかる構図が生み出されている。
- ・その際、胸を張って問題ないと言える業界であるためにも、法律について会員の皆様へ実態調査と教育を行い、業界のさらなる飛躍に努めていただきたいと思えます。
- ・また、CO2排出量抑制に向けたアクションプラン構築の中心にある経済産業省に向けて、前述のような実態調査と是正、そしてより良い循環型社会を形成する仕組み作りを行うように働きかけていただきたいと思えます。

令和6年度木質チップ等生産会員実態調査結果

地域協会別取扱量【出荷量】R5年4月～R6年3月

単位:千t (前年比)

	北日本協会 54社	関東協会 68社	東海協会 13社	近畿協会 10社	中四国協会 22社	九州協会 6社	合計 173社
4月	57.5	179.2	58.3	41.4	13.3	31.0	380.8 (+0.5%)
5月	59.8	171.9	53.1	40.3	13.5	31.3	369.9 (+7.2%)
6月	58.6	190.7	59.4	44.4	14.5	32.4	399.9 (+3.8%)
7月	60.7	182.4	57.6	42.1	15.3	31.3	389.6 (+1.2%)
8月	56.8	171.4	55.5	37.5	14.1	30.5	365.8 (+2.5%)
9月	56.3	188.0	60.2	42.1	15.2	31.3	393.2 (+0.9%)
10月	55.9	196.8	60.2	44.2	15.7	31.9	404.7 (+0.3%)
11月	60.3	187.5	59.0	43.0	16.6	31.8	398.3 (+3.4%)
12月	63.3	186.5	57.5	41.9	15.2	33.5	397.8 (+2.2%)
1月	48.8	169.1	52.2	36.5	14.5	30.4	351.6 (+5.9%)
2月	51.0	179.6	58.0	42.5	14.6	32.5	378.2 (+6.7%)
3月	54.2	192.7	62.3	44.7	16.5	33.3	403.7 (+0.1%)
合計	683.1	2,195.8	693.4	500.7	179.1	381.2	4633.3 (+2.8%)



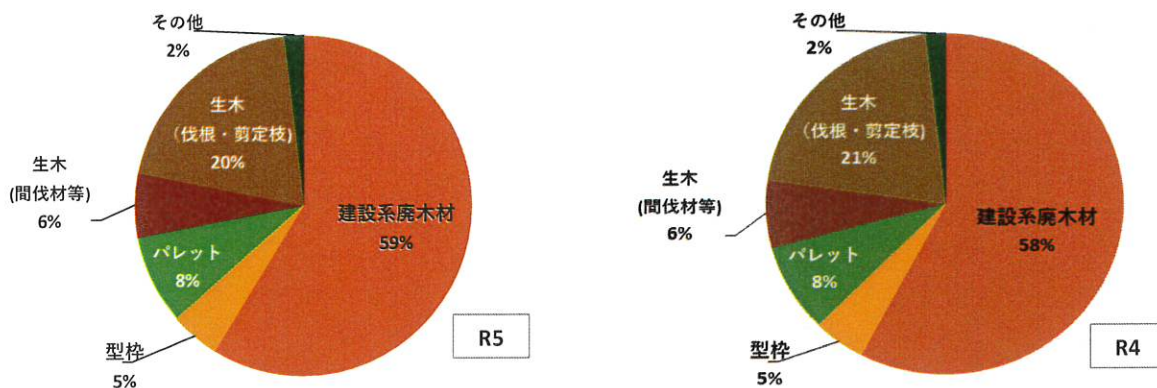
地域協会会員品目別取り扱い量【入荷量】(R5年度)

単位:千t

	北日本協会	関東協会	東海協会	近畿協会	中四国協会	九州協会	合計(全国)
有効回答数	54	68	13	10	22	6	173
建設系廃木材	334.1	1,355.8	458.2	334.7	95.1	232.6	2,810.4
型枠	36.9	114.8	32.4	27.8	5.0	11.0	228.0
パレット	52.8	192.2	72.9	44.2	18.9	25.4	406.6
生木(間伐材等)	124.1	83.1	18.9	4.3	35.8	25.3	291.5
生木(伐根・剪定枝)	154.3	475.1	117.2	65.3	56.7	84.5	953.1
その他	9.2	75.8	4.2	0.2	2.7	0.6	92.9
合計	711.5	2,296.9	703.9	476.5	214.3	379.4	4,782.3

入荷量より算出

廃木材の品目別取扱割合と前年対比



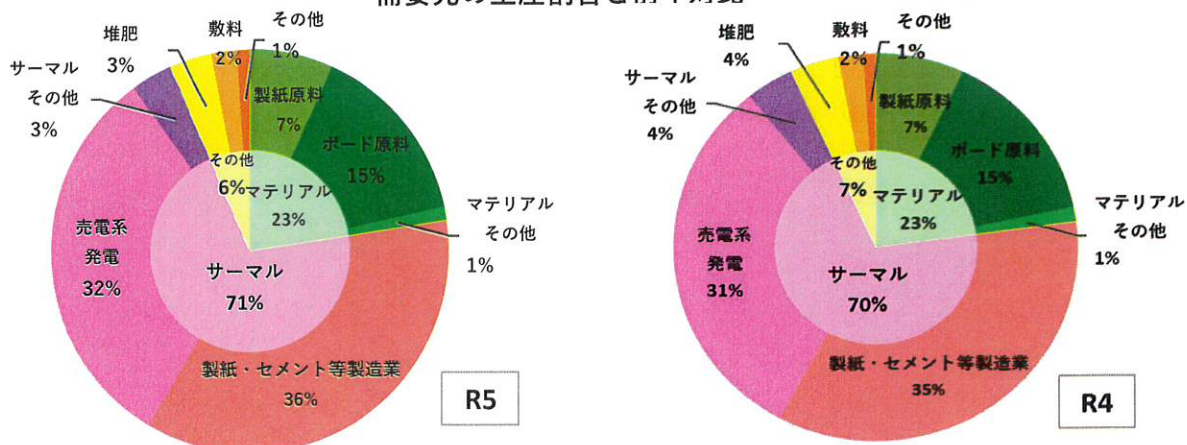
生産割合について(R5年度)

単位:千t

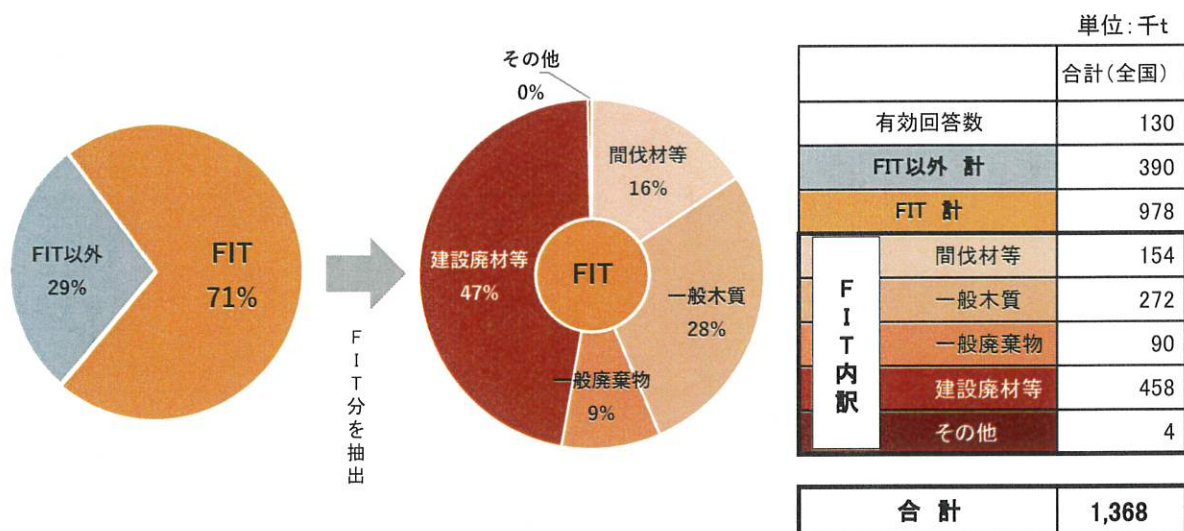
	北日本	関東	東海	近畿	中四国	九州	合計(全国)	
有効回答数	54	68	13	10	22	6	173	
全体量	680.1	2,195.8	693.4	491.2	179.1	381.2	4,620.8	
マテリアル	製紙原料	30.9	74.6	90.8	99.8	15.7	0.0	312.0
	ボード原料	55.7	321.3	52.1	141.9	32.7	80.8	684.5
	その他マテリアル	2.0	5.5	0.4	36.2	1.3	3.6	49.0
サーマル	製紙・セメント等製造業	246.0	835.1	320.3	123.2	27.3	108.2	1,660.0
	売電系発電	240.4	800.0	142.9	79.8	73.1	118.7	1,454.9
	その他サーマル	35.8	8.5	54.6	0.0	11.4	46.9	157.3
その他	堆肥	38.2	77.2	9.5	10.3	14.7	9.1	159.0
	敷料	13.5	66.8	4.0	0.0	1.9	10.6	96.7
	その他	17.6	6.8	18.7	0.0	0.9	3.3	47.3

出荷量より算出

需要先の生産割合と前年対比



FIT・FIP制度含む売電系発電への販売現況



【ユーザーまたは他メーカーへの要望事項】

- チップの引き取り単価の引き上げ(運賃の値上げによるため)。
 - 単価アップをお願いしたい。
 - 安定的な需要(ストックヤードの確保等)
 - サーマル系建廃チップ買取価格の見直しをお願いしたい。
 - 木材チップについて年間を通して安定して受け入れ願いたい。
 - 電気代、エネルギー代、資材、人件費等の製造コストが上昇しているため、チップ価格のさらなる値上げを要望します。
 - チップの引き取り単価をあげてほしい。
 - 3、4、5月で定修が重なるので、ユーザー間での協議等を行い対策を行ってほしい。
 - 2024年問題にともない運送費分の値上げはできたが、チップメーカー分の値上げも行ってほしい。
 - 搬入の際、ドライバーの待機時間削減のため対策を行ってほしい。
- 2024年問題(物流問題)への解決に向けてご協力いただいておりますが、この問題は4月で終わったわけではなく始まったばかりで、今後も様々な問題や課題の発生が想定されます。物流問題は業界の問題なので、今後も引き続きご協力をお願いいたします。
- 木質チップの新たな使用方法としてSAF燃料への利用等が探求されている状況がある。既存ユーザーとメーカーが連携して情報収集していき、既存の仕組みを守っていくにはどうすべきか考えておく必要があると思う。
 - 製造原価の高騰のため、単価のベースアップ。
 - チップ受入を安定してできるように、ヤード環境を整えてほしい。

【連合会への要望事項等】

- FIT終了後のバイオマス発電施設における売電価格の下落を防いでほしい。チップが売れなくなる。
- バイオマス用として材を入れたいという業者が出てきているが、有価取引には至らない。
- エリアの違うチップ運搬業者との情報交換の場を作ってほしい。
- 業界全体として処理料単価を少しでも上げられるように啓蒙を図っていただきたい。

廃木材の発生は、人口減とともに現状のままであれば間違いなく減少する傾向にあります。

- しかし、木質チップの需要は増えていることから、新たな廃木材の発生を喚起することが必要であり、わざわざゴミを増やせとは言えませんが、空き家対策(現状は再利用の動きにあるようですが)等、繊維板工業会など利害が一致する団体と連携しながら、関係省庁への働きかけを行うことができれば、会員各社にとって有意義ではないかと思えます。

処分業許可を持たない有価買取業者のチップをチップユーザーが買い取ることは、市況における処理料金の下落を招き、そのことはチップ価格の上昇や新規参入を招きます。結果として、チップユーザーに不利益となります。ということを継続して発信していただければ、啓蒙になるのではないかと思います。

- 適正価格、市場あらしのような値下げは規制をかけてほしい。物価が上がっているのに荷物の取り合いになっている。この荒れた市場の沈静化。

【合板型枠、建設廃木材・果樹剪定枝等の有価取引に係る最新の情報】

- 入荷量が少しずつ減ってきている。
- 相場を知りたい。
- 製造業でパレットを有価買取希望される方が増えてきている。SDGSの観点から。しかしながら運搬費という名目で費用は発生している実態がある。

FIT認定事業者取扱実績報告(令和5年度)

単位:t

地域	北日本	関東	東海	近畿	中四国	九州	計
期間	R5.4.1～R6.3.31						
事業所数	27	42	7	14	4	24	118
総出荷量	352,123	970,515	162,100	131,192	26,675	586,407	2,229,012
うちFIT証明材	151,675	307,430	613	8,517	0	279,837	748,072
(間伐材等)	(115,817)	(30,489)	(402)	(0)	(0)	(250,789)	(397,497)
(一般木質)	(35,858)	(276,941)	(211)	(8,517)	(0)	(29,048)	(350,575)
※その他	200,448	663,085	161,487	122,675	26,675	306,570	1,480,940
備考							

※その他…FIT証明材以外の材で、建設資材廃棄物や一般廃棄物がある。用途はサーマル利用だけでなくマテリアル利用を含む。

FIT認定事業所実績報告書 出荷量の推移

単位:t

地域	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
北日本	認定事業所数	8	19	21	21	23	21	23	26	27
	総出荷量	73,236	82,725	215,178	202,033	198,249	309,252	378,272	412,255	352,123
	間伐材等	9,076	30,123	43,615	61,515	63,137	139,478	157,637	189,895	115,817
	一般木質	6,627	4,112	46,619	46,960	53,285	29,871	35,351	30,985	35,858
関東	認定事業所数	16	22	27	33	34	38	40	43	42
	総出荷量	375,362	675,443	813,861	792,634	755,582	861,999	942,803	1,059,560	970,515
	間伐材等	0	10,602	8,907	11,224	6,693	7,604	9,973	39,202	30,489
	一般木質	42,713	22,515	34,496	86,343	123,188	169,926	219,894	270,451	276,941
東海	認定事業所数	4	5	5	5	5	5	7	7	7
	総出荷量	349,895	43,714	130,480	114,192	137,613	130,043	176,187	165,609	162,100
	間伐材等	0	0	0	0	0	0	235	359	402
	一般木質	0	144	0	0	0	32	74	206	211
近畿	認定事業所数	12	12	13	14	14	14	14	14	14
	総出荷量	60,337	102,194	121,577	107,942	161,377	139,516	145,301	142,658	131,192
	間伐材等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般木質	0	539	768	3,084	5,207	8,632	13,094	10,049	8,517
中四国	認定事業所数		1	2	2	2	3	2	2	4
	総出荷量		0	0	0	0	9,576	0	0	26,675
	間伐材等		0	0	0	0	0	0	0	0
	一般木質		0	0	0	0	0	0	0	0
九州	認定事業所数	19	19	19	19	24	24	23	23	24
	総出荷量	328,080	401,882	448,790	503,049	501,620	578,495	616,652	616,652	586,407
	間伐材等	31,459	69,439	103,830	119,229	121,569	215,849	232,643	232,643	250,789
	一般木質	23,382	52,275	25,292	44,080	39,056	32,085	48,882	48,882	29,048
合計	認定事業所数	59	78	87	94	102	105	109	115	118
	総出荷量	1,186,910	1,305,958	1,729,886	1,719,850	1,754,441	2,028,881	2,259,215	2,396,734	2,229,012
	間伐材等	40,535	110,164	156,352	191,968	191,399	362,931	400,488	462,099	397,497
	一般木質	72,722	79,585	107,174	180,467	220,736	240,546	317,295	360,573	350,575

※2事業所以下の場合は事業所ごとの実績がわかるため、「0」としている。合計の出荷量にも入れていない

木質バイオマス証明の認定事業者

令和6年12月1日現在

【北日本木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地(事業所)	事業所名	認定日
24 全木リ北 001	やまがたグリーンリサイクル(株)	鈴木 誠	山形県村山市金谷 1224-11		令和6年10月26日
24 全木リ北 002	遠野興産(株)	中野 光	宮城県石巻市北村字滝ノ沢 44-3	石巻工場	令和4年2月16日
25 全木リ北 001	㈱リソココーポレーション	菅原 裕之	新潟県新潟市東区臨海町3丁目4914番地583	木材リサイクルセンター	令和4年4月22日
25 全木リ北 002	㈱グリーン総業	熊谷 勝	岩手県一関市藤沢町大籠字天ノ穴38番地		令和4年5月15日
25 全木リ北 004	㈱県南チップ	海老澤秀樹	山形県南陽市和田西大作3368-1	南陽工場	令和4年6月25日
27 全木リ北 001	㈱グリーンシステム	鈴木 隆	山形県山形市飯塚町字中河原1629-5		令和6年4月6日
27 全木リ北 002	ナイスグリーン(株)	石垣 光喜	宮城県仙台市青葉区大倉字山根16		令和6年5月15日
28 全木リ北 001	㈱ノブタ興業	信田 勝司	岩手県九戸郡洋野町種市第51-72-4		令和4年4月25日
28 全木リ北 003	ウイル(株)	高橋 貴宏	山形県南陽市萩 3452-7		令和4年5月23日
28 全木リ北 004	㈱みるめグリーン	千葉 明	青森県三戸郡南部町大字森越字野場境16-3		令和4年5月23日
28 全木リ北 005	㈱アメリカ屋	鈴木 金一	福島県石川郡玉川村南須釜千五沢196-1	中間処分場	令和4年6月17日
28 全木リ北 006	㈱アメリカ屋	鈴木 金一	福島県石川郡玉川村南須釜小半弓32-3	チップ工場	令和4年6月17日
28 全木リ北 007	㈱県南チップ	海老澤秀樹	山形県米沢市大字三沢字白旗26100-26	リサイクルステーション	令和4年6月25日
28 全木リ北 011	㈱アールテック	後藤 重信	山形県寒河江市大字日田字中向400番地		令和5年3月28日
29 全木リ北 001	㈱源建設	矢澤 源一郎	新潟県上越市吉川区原之町1856番地4		令和5年10月5日
29 全木リ北 002	旭興業(株)	浅野 新一	宮城県加美郡香美町字蓬田48		令和6年2月7日
30 全木リ北 001	クワンシンングセンター(株)	桐生 泰一郎	新潟県南魚沼郡若荷沢1472番地1		令和6年8月16日
31 全木リ北 001	新潟エコリサイクル工業(株)	斉藤 隆	新潟県新潟市西蒲区横戸字新河前445-3		令和4年5月25日
31 全木リ北 002	㈱村山興業	村山 広幸	新潟県十日町市北新田132番地		令和4年7月1日
31 全木リ北 003	三栄産業(株)	西牧 正夫	福島県いわき市南台3丁目1番地の24	リサイクルセンター	令和4年9月1日

03 全木リ北 001	グリーンリサイクル(株)	千葉 政浩	福島県二本松市小沢字 115・28	二本松工場	令和4年3月28日
03 全木リ北 002	グリーンリサイクル(株)	千葉 政浩	岩手県北上市相去町大松沢 1-81	北上工場	令和4年3月28日
04 全木リ北 001	㈱リンクエコソリューション	大内 勝行	福島県福島市大笹生字釜平 3-3	リサイクルエコプラ ント	令和4年7月25日
04 全木リ北 002	㈱山国	山内 完三	宮城県柴田郡川崎町大字支倉字鍛冶谷山 3-8	支倉プラント	令和4年10月5日
04 全木リ北 003	㈱日本建機	金子 良治	新潟県村上市荒川緑新田 413-24	日本建機エコサイ クルステーション	令和4年11月17日
04 全木リ北 004	㈱大橋商会	大橋 崇	新潟県新潟市北区太郎代御城山 787-1	大橋商会東港工場	令和5年3月25日
05 全木リ北 001	㈱ワエステック	五十嵐 敦	福島県喜多方市慶徳町大字豊岡字蛇崩 3514-5		令和5年6月13日

氏名	役職	所属
鈴木 隆	連合会副理事長	㈱クリーンシステム
中野 光	連合会理事 (委員代理)	遠野興産(株)
松本 保		㈱県南チップ
高橋 秀孝	北日本協会事務局	㈱クリーンシステム

【関東木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地 (事業所)	事業所名	認定日
24 全木リ関 002	㈱クワバラ・パンぷキン	桑原 幹夫	埼玉県加須市正能字古宮 2 番 5 外	ほくさいウッドリサイクル	令和6年11月15日
24 全木リ関 003	㈱グリーン	藤枝 慎治	横浜市金沢区鳥浜町 17 番地 3	本社工場 本社事務所	令和3年12月11日
24 全木リ関 004	㈱駿河サービズ工業	尾崎 光明	神奈川県足柄上郡松田町松田惣領 2655-1	松田工場	令和4年1月23日
24 全木リ関 005	㈱峡南環境サービス	河澄 秋芳	山梨県南アルプス市戸田 916-18	南アルプス総合リサイクルプラント	令和4年3月27日
24 全木リ関 006	㈱清水インダストリー	清水 秀美	群馬県高崎市宮沢町 10-1	榛名工場	令和4年3月4日

24	全木リ関 007	亀井産業(株)	亀井 寿之	群馬県高崎市金古町 1804-5	本社事務所	熊谷工場	令和 4 年 3 月 29 日
25	全木リ関 001	㈱エコネット	小原 拓也	埼玉県熊谷市三ヶ尻 4236	本社工場	本社工場	令和 4 年 5 月 23 日
25	全木リ関 002	遠野興産とちぎ(株)	中野 光	栃木県那須塩原市鳥野目 330-1	本社工場	本社工場	令和 4 年 6 月 24 日
25	全木リ関 003	バイオマス・フューエル(株)	黒田 栄作	群馬県館林市大手町 11-13	館林事務所	館林事務所	令和 4 年 9 月 27 日
25	全木リ関 004	フルハシ EPO(株)	山口 直彦	千葉県千葉市中央区浜野町 1216-68	千葉リサイクルランド	千葉リサイクルランド	令和 4 年 6 月 10 日
25	全木リ関 005	㈱石崎興業	石崎 文治	埼玉県入間市高倉 2-9-39	本社事務所	本社事務所	令和 4 年 8 月 26 日
25	全木リ関 006	㈱オダワラ	小田原 哲	群馬県前橋市泉沢町 1250-6	木材チップ工場	木材チップ工場	令和 4 年 11 月 1 日
27	全木リ関 001	泉工業(株)	中塚 誠	栃木県佐野市仙波町字瀬戸野 1568-2 他	佐野リサイクルセンター	佐野リサイクルセンター	令和 6 年 8 月 10 日
27	全木リ関 002	㈲エンジンニアリングウツド	小野澤厚史	長野県佐久市御馬寄 1132 番地	本社チップ工場	本社チップ工場	令和 6 年 8 月 13 日
27	全木リ関 003	㈱タケエイ	阿部 光男	千葉県四街道市長岡 272-1	四街道リサイクルセンター	四街道リサイクルセンター	令和 6 年 10 月 19 日
27	全木リ関 004	新エネルギー供給(株)	神島 信	東京都港区浜松町 1-12-11 丸芝ビル 4F	本社事務所	本社事務所	令和 4 年 3 月 28 日
28	全木リ関 002	㈱WR	小林 明	群馬県沼田市岡谷町 1137-1	本社工場	本社工場	令和 4 年 9 月 23 日
28	全木リ関 004	横浜エコロジィ(株)	菅野 英治	神奈川県横浜市金沢区幸浦 1-4-2	幸浦工場	幸浦工場	令和 4 年 12 月 13 日
28	全木リ関 005	㈱タケエイ	阿部 光男	神奈川県川崎市川崎区浮島 10-11	川崎リサイクルセンター	川崎リサイクルセンター	令和 5 年 3 月 16 日
28	全木リ関 006	J & T 環境(株)	露口 哲男	神奈川県川崎市幸区堀川町 580 番地 ソリッドスクエア東館 9 階	本社事務所	本社事務所	令和 5 年 3 月 30 日
29	全木リ関 001	勝田環境(株)	望月 福男	茨城県ひたちなか市高野大房地 1967 番地 2	RC 事業部	RC 事業部	令和 5 年 4 月 26 日
29	全木リ関 002	㈱エコナビ・リファイン	鈴木 隆男	宮城県仙台市青葉区本町 2-10-33 第二日本オフィスビル 8 階	㈱エコナビ・リファイン	㈱エコナビ・リファイン	令和 5 年 4 月 26 日
29	全木リ関 003	㈱リ・フォレスト	小林 明	群馬県沼田市石墨町 2110-1	本社リサイクル工場	本社リサイクル工場	令和 6 年 1 月 10 日
29	全木リ関 004	㈲ケイ運送	小林 計一	群馬県利根郡みなかみ町政所 1059	みなかみ営業所	みなかみ営業所	令和 5 年 10 月 20 日
29	全木リ関 005	㈱神山緑地産業	神山 隆弘	長野県長野市若穂川田字和田 2401-13	㈱神山緑地産業リサイクルセンター	㈱神山緑地産業リサイクルセンター	令和 6 年 3 月 26 日
30	全木リ関 001	㈲神辺土建	神辺 智行	埼玉県入間郡毛呂山町大字葛貫字	毛呂山作業所	毛呂山作業所	令和 3 年 12 月 6 日

				新田前 1105 番 1、7						
30 全木り関 002	南大誠農林リサイクルセンター	中澤 朗久		山梨県都留市朝日馬場 2013 番地 1	本社工場			令和 3 年 12 月 6 日		
30 全木り関 003	東栄倉庫(株)	石井 榮		神奈川県相模原市中央区清新 8-16-1	本社事務所			令和 4 年 1 月 18 日		
30 全木り関 004	ウッドチップサービズ(株)	石井 榮		神奈川県相模原市中央区清新 8-16-1	本社事務所			令和 4 年 1 月 18 日		
30 全木り関 005	㈱後藤造園	後藤 誉夫		東京都足立区入谷 7-3-17	グリーンラゾフ郷			令和 4 年 3 月 25 日		
31 全木り関 001	㈱タケエイグリーンリサイクル	秋庭 勉		神奈川県横須賀市浦郷町 5-2931-15	横須賀工場			令和 4 年 11 月 28 日		
31 全木り関 002	㈱神商	茂木 照男		千葉県野田市下三ヶ尾 264-1	紳商リサイクル事業所			令和 5 年 3 月 2 日		
02 全木り関 001	青柳造園(株)	青柳 敬之		栃木県下野市上古山 1371-3	本社リサイクルセンター			令和 5 年 5 月 1 日		
02 全木り関 002	㈱EGL	小島 崇嘉		東京都中央区八丁堀 4-10-4 オーキッドプレイス 8 階	本社事務所			令和 5 年 10 月 20 日		
02 全木り関 003	東関リサイクル(株)	南里 岳志		千葉県八街市八街に 292	本社工場			令和 5 年 10 月 20 日		
03 全木り関 001	㈱グリーンチップエナジー	飯塚 裕之		群馬県邑楽郡千代田町赤岩 2931-1	本社事務所			令和 6 年 8 月 10 日		
03 全木り関 002	㈱彰工業	松村 彰彦		栃木県足利市山川町 714-1	本社事務所			令和 6 年 8 月 10 日		
04 全木り関 001	㈱みずび工務店	前島 大輔		長野県上田市仁古田 1234-5	MTR プラント			令和 4 年 4 月 8 日		
04 全木り関 002	㈱ヨシザワ	吉澤真理子		栃木県さくら市鷲宿 4534-2	中間処理施設			令和 4 年 10 月 26 日		
04 全木り関 003	㈱藤薬商事	新藤 友啓		埼玉県さいたま市岩槻区大字末田 字上手 2048-2	岩槻リサイクルセンター			令和 5 年 3 月 3 日		
06 全木り関 001	PLANTS PLUS(株)	伊藤 法義		千葉県千葉市若葉区小間子町 1-48	本社工場			令和 6 年 5 月 30 日		
06 全木り関 002	㈱EG八王子	伊倉 良太		東京都八王子市石川町 2969-5	本社工場			令和 6 年 10 月 7 日		

審査委員

氏名	役職	所属	氏名	役職	所属
矢吹 賢二	連合会監事	住友林業フォレストサ ービス(株)	仁木 智之	関東協会理事	フルハシEPO(株)
原 信男	連合会専務理事		大田 祐太郎	関東協会理事	㈱タケエイ
古敷谷裕二	関東協会理事	㈱グリーン	田中 元浩	関東協会	㈱エコグリーン

【東海木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地（事業所）	事業所名	認定日
27 全木り東002	㈱八開チップ	飯尾 清女	愛知県愛西市下東川町蔵之段 74 番地		令和 6 年 2 月 23 日
28 全木り東001	㈱アイ・エヌ・ジー	青山 典生	三重県桑名郡木曾岬町和泉 279-1		令和 4 年 1 月 15 日
28 全木り東002	㈱ヤマガネ商事	金安 栄丸	愛知県岡崎市保母町字木崩 1-66		令和 4 年 4 月 28 日
28 全木り東003	㈱松井工業	松井 忠博	愛知県豊橋市牛川町西側 44-1		令和 4 年 11 月 1 日
03 全木り東001	フルハシ EPO(株)	山口 直彦	愛知県半田市日東町 4-53	愛知第七工場(半田)	令和 6 年 7 月 22 日
03 全木り東002	フルハシ EPO(株)	山口 直彦	愛知県弥富市楠 1-118	愛知第二工場(弥富)	令和 6 年 8 月 17 日
03 全木り東003	フルハシ EPO(株)	山口 直彦	岐阜県多治見市笠原町梅平 3992-1	岐阜第一工場(多治見)	令和 6 年 8 月 17 日

審査委員

氏名	役職	所属
山口 昭彦	連合会理事	フルハシ EPO(株)
石田 謙治	連合会理事	岐阜代用燃料(株)
戸田 克彦	東海協会副会長(代理)	名古屋港木材倉庫(株)
松井 忠博	東海協会事務局長	㈱松井工業

【近畿木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地（事業所）	事業所名	認定日
26 全木り近002	三重中央開発(株)	平井 俊文	三重県伊賀市予野字鉢屋 4713 番地	三重事業所	令和 5 年 11 月 4 日
26 全木り近003	三重中央開発(株)	平井 俊文	京都府木津川市加茂町大畑背谷 38 番地 1	京都事業所	令和 5 年 11 月 4 日
26 全木り近004	大栄環境(株)	金子 文雄	兵庫県三木市口吉川町吉祥寺谷 132-8	三木リサイクルセンター	令和 5 年 11 月 6 日
27 全木り近002	大栄環境(株)	金子 文雄	大阪府和泉市テクノステージ 2 丁目 3-28	和泉リサイクルセンター	令和 6 年 3 月 12 日
27 全木り近004	㈱ReEARTH	林 忠實	京都市伏見区深草神明講谷町 4	本社事業所	令和 6 年 4 月 3 日
27 全木り近005	㈱神戸ポーターリサイクル	寄尾 延夫	神戸市中央区港島 9 丁目 13	本社事業所	令和 6 年 4 月 16 日
27 全木り近006	和歌山代用燃料(株)	中尾 準一	和歌山市西浜 1660 番地	本社事業所	令和 6 年 11 月 10 日

27全木リ近007	ハリマ産業エレクトリック(株)	梶原 成郎	姫路市網干区浜田 1223-10	本社事業所	令和6年11月16日
27全木リ近008	(株)ナカミチ建機サービス	有城 功二	三重県南牟婁郡紀宝町神内 1261-2	本社事業所	令和6年11月20日
29全木リ近001	(株)エスケイカンポスト	金森 隆志	滋賀県長浜市泉町 1370 番地	本社事業所	令和5年7月25日
30全木リ近001	中一木材(株)	中永 了之	和歌山県紀の川市北中 386 番地 3	本社事業所	令和6年11月27日
02全木リ近001	DINS 関西(株)	下地 正勝	大阪府堺市西区築港新町四丁 2 番 3 号	RAC事業所	令和5年10月21日

審査委員

氏名	役職	所属
鷹野 賢次郎	連合会理事	木材開発(株)
船越 登	連合会理事	関西チップ工業(株)
伊藤 幸助	近畿協会	(株) I. T. O
田淵 茂雄	近畿協会事務局	木材開発(株)

【中四国木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地 (事業所)	事業所名	認定日
01全木リ中四001	徳島リサイクル工業(株)	美馬 豊	徳島県美馬市脇町字西赤谷 2351	工場	令和4年12月1日
02全木リ中四001	(株)アースクリエイト	三好 員弘	徳島県阿波市阿波町五明 141-1	本社事務所	
05全木リ中四001	(株)赤碕トランスネット	岡崎 博紀	岡山県小田郡矢掛町中里山田 99-1	中間処理場	令和6年1月1日
			鳥取県西伯郡大山町石井垣字向山 332-1	木材リサイクルセンター	令和6年3月1日

審査委員

氏名	役職	所属
岡崎 博紀	連合会理事	(株)赤碕トランスネット
片岡 重治	中四国協会監事	(有)片岡久工務店
田中 一正	連合会監事	まるふく商事(株)

【九州木材資源リサイクル協会】

認定番号	事業者名	代表者	所在地(事業所)	事業所名	認定日
24 全木リ九 001	中山リサイクル産業(株)	中山 智	福岡県糟屋郡須恵町植木 81-5 大分県大分市大字日吉原 1-33 大分県佐伯郡本匠大字堂ノ間 933-1	須恵工場 大分工場 グリーンパーク本匠	令和 3 年 12 月 7 日
24 全木リ九 002	ホクザイ運輸(株)	河本 一成	福岡県北九州市小倉北区西港町 72-30	本社工場	令和 4 年 1 月 24 日
24 全木リ九 003	(株)中央環境	上田 恭久	長崎県長崎市西海町 2739-4	リサイクルセンターチッ プ工場	令和 4 年 2 月 8 日
24 全木リ九 004	(有)九州パーク運輸	林 弘道	福岡県朝倉市杷木星丸 765 番地の 1	添田工場	令和 4 年 3 月 28 日
25 全木リ九 001	中山リサイクル産業(株)	中山 智	福岡県東区箱崎ふ頭 4-13-1 佐賀県嬉野市塩田町大字久間乙 2265	箱崎工場 佐賀工場	令和 4 年 5 月 1 日
26 全木リ九 001	大東商事(株)	小原 英二	熊本県熊本市北区楠野町 453-1	新港リサイクルセンター	令和 5 年 11 月 17 日
27 全木リ九 001	中山リサイクル産業(株)	中山 智	大分県杵築市山香町大字久木野尾 2002-26	グリーンパーク杵築	令和 6 年 4 月 27 日
27 全木リ九 002	(株)山崎紙源センター	山崎 孝一	宮崎県宮崎市江平東町 6 番地 13	都城営業所	令和 6 年 7 月 1 日
27 全木リ九 004- GHG	(有)九州パーク運輸	林 弘道	福岡県朝倉市杷木星丸 765 番地の 1	黒木工場	令和 6 年 12 月 1 日
27 全木リ九 005	有価物回収協業組合石 坂グループ	石坂 孝光	熊本県熊本市東区戸島町 2874 番地	本社工場	令和 6 年 12 月 1 日
27 全木リ九 006	(株)土佐屋	岡部龍一郎	鹿児島県鹿児島市宇宿二丁目 9 番 11 号	土佐屋リサイクルセンター	令和 6 年 12 月 1 日
27 全木リ九 007	(株)イワフチ	岩淵 慶太	佐賀県杵築郡江北町大字下山田 3305-1	西日本広域リサイクルプ ラザ	令和 3 年 12 月 21 日
28 全木リ九 001	中山リサイクル産業(株)	中山 智	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木 2114 番 地の内	グリーンパーク津奈木	令和 4 年 1 月 1 日
28 全木リ九 002	(株)エコポート九州	石坂 孝光	熊本県熊本市西区新港 1 丁目 4-10	本社工場	令和 4 年 2 月 1 日
30 全木リ九 001	(株)モリセ	森瀬 幸孝	長崎県雲仙市国見町土黒甲 28-10	モリセリサイクルプラザ ト	令和 6 年 11 月 1 日

31 全木リ九 001	グリーンパーク N&M(株)	河野 秀彦	福岡県朝倉郡筑前町森山 1412 番地 2	筑前工場	令和 4 年 10 月 21 日
02 全木リ九 001	中山リサイクル産業(株)	中山 智	福岡県築上郡築上町大字下香楽 658	グリーンパーク築上	令和 6 年 1 月 11 日
05 全木リ九 001	中山リサイクル産業(株)	中山 智	福岡県うきは市吉井町鷹取 1093-12	うきは工場	令和 5 年 1 月 16 日
05 全木リ九 002	(株)天草・リサイクルセンター	松本 仁	熊本県上天草市松島町今泉 4289 番地	天草・リサイクルセンター	令和 5 年 7 月 1 日

審査委員

上田 恭久	連合会理事	中央環境(株)	中山 智	九州協会理事	中山リサイクル産業(株)
小原 隆二	連合会理事	大東商事(株)	河本 一成	九州協会理事	ホクザイ運輸(株)
永利 和隆	九州協会監事	木材開発(株)	河野 秀彦	九州協会事務局	中山リサイクル産業(株)